

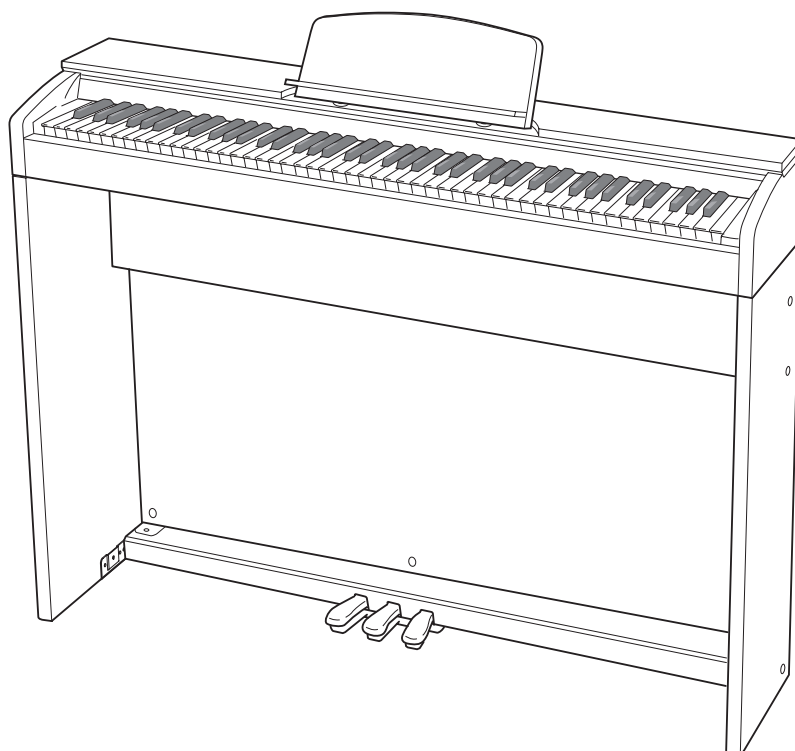
Privia

PX-1500GP

取扱説明書（保証書別添）

この取扱説明書は、お読みになったあとも、
保証書とともに、大切に保管してください。

- 別紙の「安全上のご注意」をお読みの上で、
正しくお使いください。
- スタンド、譜面立ての組み立て方法は、本書の
42ページをご覧ください。



■ JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格「JIS C 61000-3-2」に適合しています。

CEマーキングは、ヨーロッパ地域の基準適合マークです。

CE Manufacturer:
CASIO COMPUTER CO., LTD.
6-2, Hon-machi 1-chome, Shibuya-ku, Tokyo 151-8543, Japan
Responsible within the European Union:
Casio Europe GmbH
Casio-Platz 1, 22848 Norderstedt, Germany
www.casio-europe.com

本書に記載されている社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標および商標です。

目次

演奏の準備	42
スタンドを組み立てる.....	42
コード類を接続する.....	45
譜面立ての立て方.....	46
ピアノ天板の開け方／閉め方.....	46
鍵盤に付いている保護テープをはがす.....	46
電源について.....	47
ヘッドホンを接続するには.....	47
オーディオやアンプと接続するには.....	48
付属品・別売品について.....	48

各部の名称	4
機能ボタンについて.....	5
設定の保存と、操作のロックについて.....	5

電源の準備	6
電源の入れ方、切り方.....	6
工場出荷時の状態に戻すには.....	6

いろいろな音色を聴いてみましょう	7
音色を選んで弾いてみる.....	7
アコースティックシミュレーターを使って ピアノの音の特徴を調整する.....	8
2つの音色を重ねてみる（レイヤー）.....	9
音色に効果をかけてみる（エフェクト）.....	10
ペダルを使ってみる.....	11
メトロノームを鳴らしてみる.....	12
2台ピアノにして弾いてみる（デュエット）.....	13

内蔵曲を活用する （コンサートプレイ、 ミュージックライブラリー、 デモ演奏）	14
--	-----------

デモ演奏を聴いてみる.....	14
コンサートプレイ.....	15
コンサートプレイの曲を練習してみる.....	15
ミュージックライブラリー.....	17
ミュージックライブラリーの曲を 1曲ずつ聴いてみる.....	17
ミュージックライブラリーの曲を 練習してみる.....	17
USBメモリーに保存した オーディオデータを再生するには.....	18

演奏を録音／再生してみる （録音機能）	19
--------------------------------------	-----------

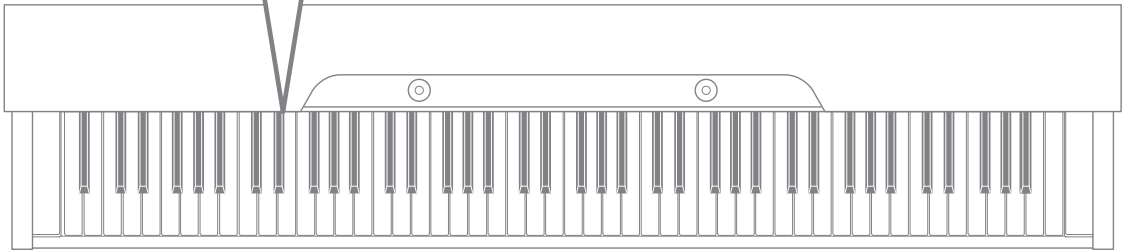
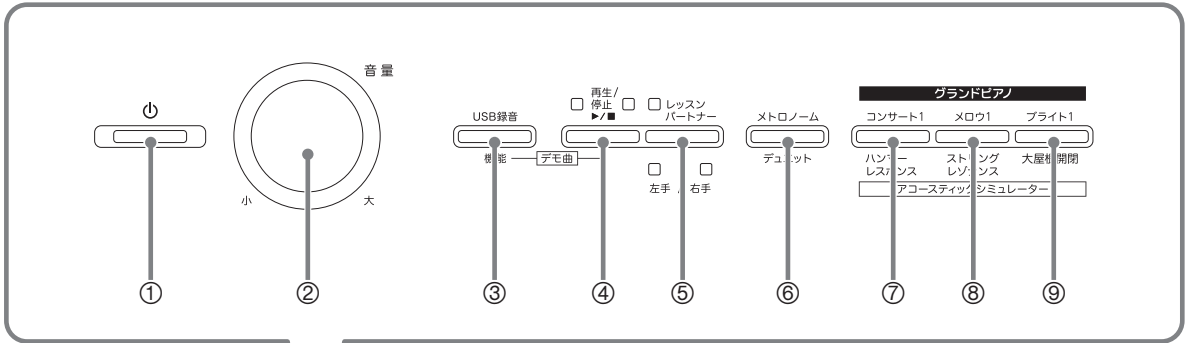
レッスンパートナーでの録音.....	19
レッスンパートナーボタンでの録音方法.....	19
USB録音（USBメモリーへの録音）.....	22

その他の設定	25
---------------------	-----------

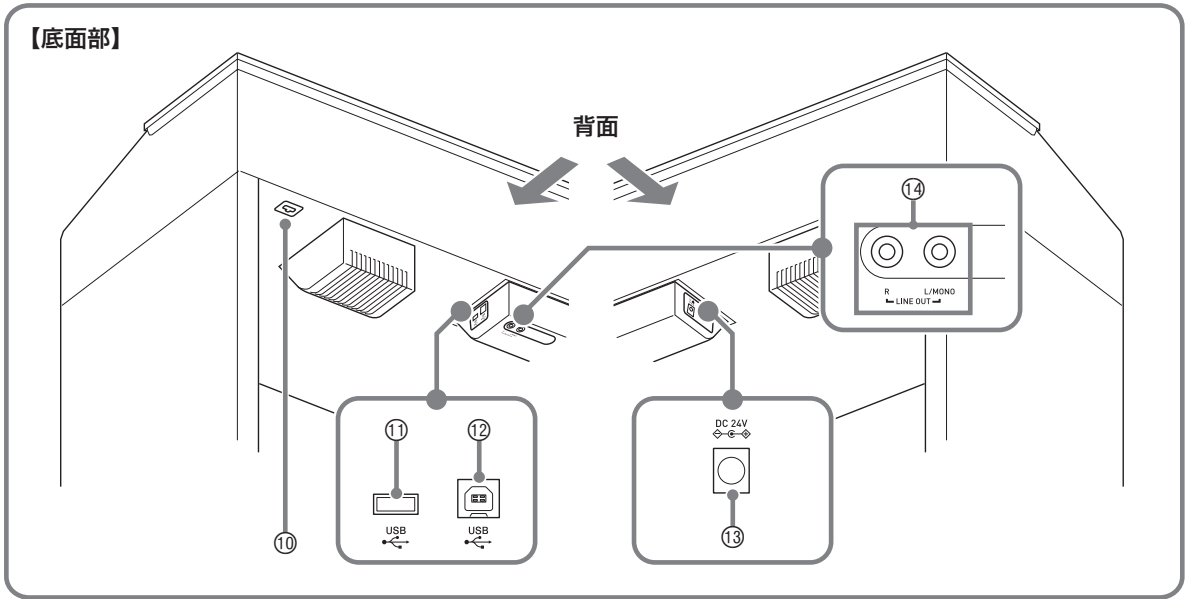
設定するには.....	25
設定に使用する鍵盤一覧.....	26
設定項目一覧表.....	27
ホールシミュレーター.....	27
音色選択.....	27
コーラス.....	27
プリリアンス.....	27
レイヤーのバランス.....	27
デュエットのパン.....	27
ベースのダンパー効果.....	27
ダンパーノイズ.....	27
ミュージックライブラリー曲の選択.....	28
テンポ.....	28
拍子.....	28
メトロノームのテンポ.....	28
メトロノームの拍子.....	28
コンサートプレイ曲の再生／停止.....	28
リッスン.....	28
レッスン.....	28
プレイ.....	28
コンサートプレイ曲の選択.....	28
コンサートプレイ曲の音量.....	28
ミュージックライブラリーの音量.....	28
メトロノームの音量.....	28
音律.....	29
音律の基音（ベースノート）.....	29
音律選択.....	29
鍵盤タッチ.....	29
鍵盤の調（トランスポーズ）.....	29
音の高さの微調整（チューニング）.....	29
オクターブシフト.....	29
USBデバイスモードの設定.....	30
ローカルコントロール.....	30
送信チャンネル.....	30
USB録音の音量.....	30
操作音.....	30
設定の保存.....	30
操作のロック.....	30
USBメモリーデバイス.....	30
フォーマット.....	30
セーブ.....	30
ロード.....	30
デリート.....	30

USB メモリーを使用した データの管理	31
外部のオーディオデータ (WAV ファイル) を USB メモリーに保存するには.....	32
USB メモリーを本機に装着する・取り外す.....	32
USB メモリーをフォーマットする.....	32
レッスンパートナーで録音した曲を USB メモリーに保存する.....	34
USB メモリーの曲データを本機に読み込む.....	35
USB メモリーの曲データを消去する.....	36
USB メモリーの曲を簡単に再生するには.....	37
エラー表示一覧.....	38
パソコンとの接続について	39
パソコンと接続する.....	39
MIDI 機能を使ってみる.....	39
本機で録音した曲をパソコンに保存する/ パソコンの曲データを本機に読み込む.....	40
資料	49
困ったときは.....	49
製品仕様.....	50
音色リスト.....	52
コンサートプレイリスト.....	52
ミュージックライブラリーリスト.....	52
ご使用上の注意.....	53
保証・アフターサービスについて.....	53
MIDI インプリメンテーション・チャート	

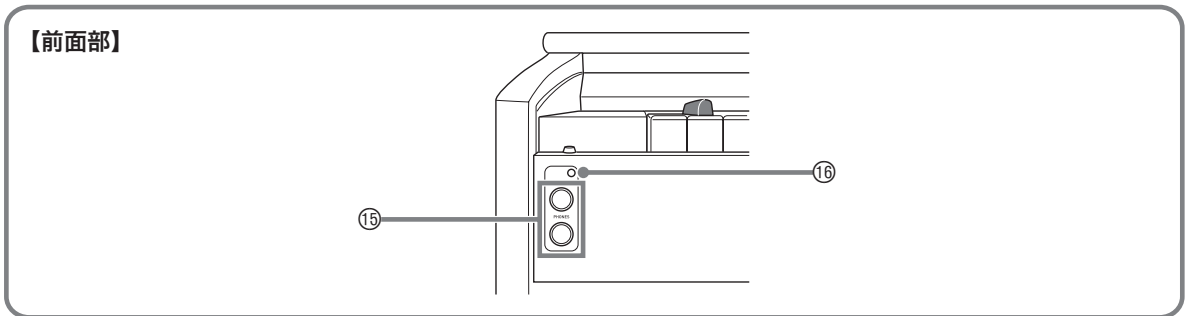
各部の名称



【底面部】



【前面部】



△注意

- 本機を演奏する際、必ず本機のスライド式鍵カバーを完全に開けるようにしてください。不完全な開け方で演奏した場合、演奏の際の振動でカバーが閉まり、本機とカバーとの間に指をはさむことがあり、危険です。

📎メモ

- ④マーク右の数字は、参照ページです。
- 各部の名称は、本書の説明文中で太字で記載されます。

- | | |
|---|---|
| ① 電源ボタン ④6 | ⑨ グランドピアノ(ブライト1)、大屋根開閉ボタン
④6, 7, 8 |
| ② 音量つまみ ④7, 48 | ⑩ ペダルコネクター ④45 |
| ③ USB録音、機能ボタン ④5~25, 33~37 | ⑪ <small>ユーエスピー</small> USB メモリー端子 ④32 |
| ④ 再生/停止 ▶/■ボタン
④12, 14, 17, 20~23, 33~37 | ⑫ <small>ユーエスピー</small> USB 端子 ④39 |
| ⑤ レッスンパートナー(左手/右手)ボタン ④19 | ⑬ 電源端子(DC 24V) ④45 |
| ⑥ メトロノーム、デュエットボタン ④12, 13, 20 | ⑭ <small>ラインアウト</small> LINE OUT R,L/MONO端子 ④48 |
| ⑦ グランドピアノ(コンサート1)、ハンマーレスポンスボタン ④6, 7, 8 | ⑮ <small>ホンズ</small> PHONES端子 ④47 |
| ⑧ グランドピアノ(メロウ1)、ストリングレゾナンスボタン ④6, 7, 8 | ⑯ 電源ランプ |

機能ボタンについて

本機では、機能ボタンを使って様々な設定を行います。操作の流れとポイントを、ここでつかんでおきましょう。

- 機能ボタンは、これを押しながら、設定項目が割り当てられているボタンや鍵盤を押す、という使い方をします。

例：7ページの「演奏を始めるには」

📎メモ

- 鍵盤で設定できる内容と、操作方法については、25ページの「その他の設定」をご参照ください。



設定の保存と、操作のロックについて

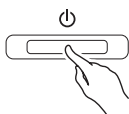
本機では、各種設定の内容を電源を切った後も保存したり、ボタンをロックして誤操作を防ぐこともできます。詳しくは27~30ページの「設定項目一覧表」を参照してください。

電源の準備

スタンドの組み立てが終わったら、電源を入れます。詳しくは、42ページの「演奏の準備」を参照してください。

電源の入れ方、切り方

1. 電源ボタン（本機の電源をコントロールするボタン、以降「電源ボタン」）を押して、本機の電源を入れます。



- 電源ボタンが点灯します。
- グランドピアノ（コンサート1、メロウ1、ブライツ1）ボタンのランプが順に点灯し、約5秒後に使用可能となります。

2. 本機の電源を切るには、電源ボタンを消灯するまで押し続けます。

メモ

- 電源ボタンで電源を切ったあとも、本機は微電流が流れているスタンバイ状態になっています。本機を長時間使用しないとき、あるいは落雷のおそれがあるときは、必ずACアダプターをコンセントから外してください。

オートパワーオフ機能

本機を何も操作せずに一定時間放置すると、無駄な電力消費を防ぐため自動的に電源が切れます。電源が切れるまでの時間は、約4時間です。

- 下記の操作で一時的にオートパワーオフ機能をキャンセルすることができます。

■ オートパワーオフ機能をキャンセルするには

1. 本機の電源が入っている場合は、電源ボタンを押して、いったん電源を切ります。
2. 機能ボタンを押しながら、電源ボタンを押します。



- オートパワーオフ機能がキャンセルされた状態で、電源が入ります。

メモ

- 上記の操作の後で電源を切り、電源ボタンだけを押して電源を入れ直すと、オートパワーオフ機能は再び有効になります。

工場出荷時の状態に戻すには

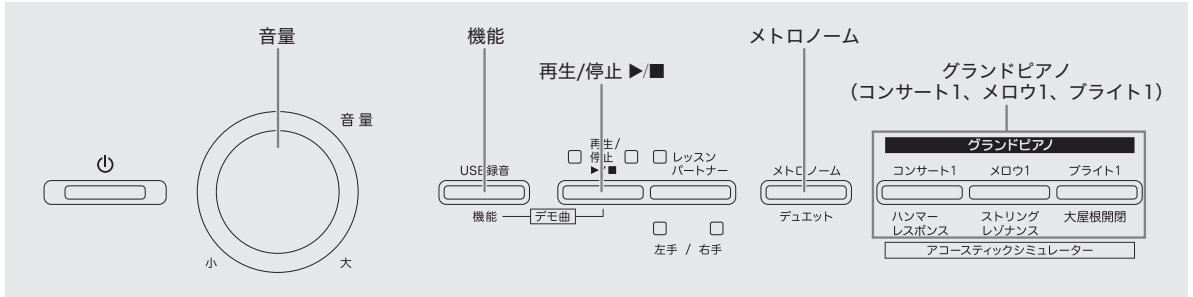
本機のデータや設定などシステムの内容をすべて初期化して、工場から出荷したときの状態に戻すことができます。

1. 本機の電源を切ります。
2. グランドピアノ（ブライツ1）ボタンと機能ボタンを両方一緒に押しながら、電源ボタンを押します。
3. グランドピアノ（ブライツ1）ボタンと機能ボタンをそのまま押し続けます。その間に、本機は以下の動作を始めます。
 - (1) グランドピアノ（コンサート1、メロウ1、ブライツ1）ボタンのランプが交互に点滅し始めます。
 - (2) 次第に点滅が速くなります。
 - (3) 点滅が停止します。
4. グランドピアノ（ブライツ1）ボタンと機能ボタンを離します。
 - システムの初期化をしばらく行った後に、演奏できる状態になります。

メモ

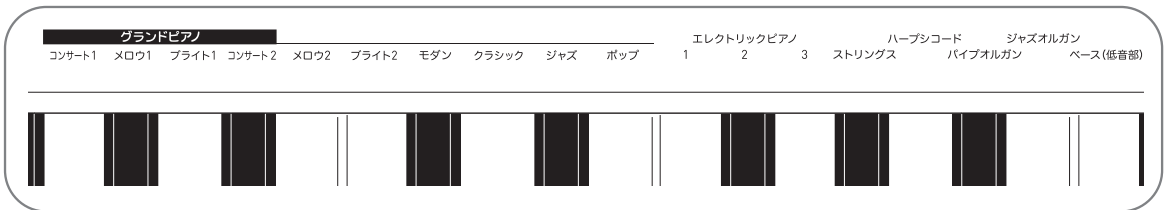
- 電源のオンオフ操作については、6ページ「電源の入れ方、切り方」をご参照ください。

いろいろな音色を聴いてみましょう



音色を選んで弾いてみる

本機には、18種類の音色があります。



- 音色名は、本機鍵盤部の上側に記されています。

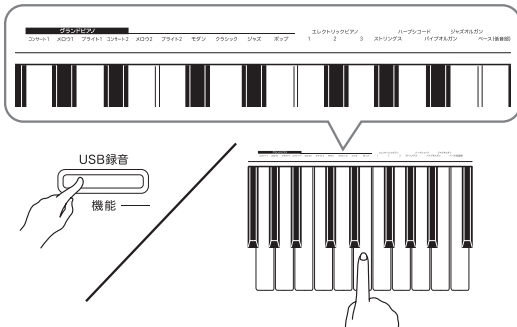
演奏を始めるには

1. 音色を選びます。

- グランドピアノ音色（コンサート1、メロウ1、ブライト1）を選ぶには
 - グランドピアノ(コンサート1、メロウ1、ブライト1)ボタンのいずれかを押します。



- 押したボタンの音色が選ばれて、ランプが点灯します。
- その他の15音色を選ぶには
 - 機能ボタンを押したままの状態、で、選びたい音色に対応している鍵盤を押します。



2. 音量を調節します。

- 音量つまみを使って調節します。

3. 鍵盤を弾いてみましょう。

メモ

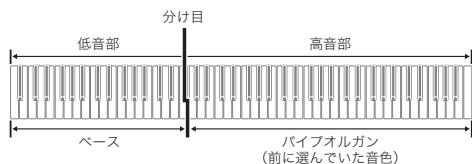
- 18種類の音色のうち、10種類はグランドピアノ音色です。それぞれ特徴のあるおすすめの色色ですので、演奏する曲やお好みに合わせてお選びください。コンサート1、メロウ1、ブライツ1の3色は、ボタンを使って選べます。

音色名	特徴
コンサート1	フルコンサートグランドピアノ音色です。あらゆるジャンルのピアノ演奏に適しています。
メロウ1	暖かみがあり落ち着いたグランドピアノ音色です。やわらかな曲調の演奏に適しています。
ブライツ1	アンサンブルにも適している明るく硬い存在感のあるグランドピアノ音色です。
コンサート2	コンサート1よりも広がり響きをおさえた落ち着いたあるコンサートグランドピアノ音色です。
メロウ2	メロウ1よりも更に落ち着いたグランドピアノ音色で、静かな音楽に適しています。
ブライツ2	ブライツ1よりも更に明るくて歯切れの良いグランドピアノ音色です。
モダン	明るめのグランドピアノ音色です。ダイナミックで華やかな演奏効果をあげるのに適しています。
クラシック	自然な響きと演奏性を持つグランドピアノ音色です。共鳴効果などが分かりやすく、繊細な表現が可能です。
ジャズ	ジャズ音楽を演奏するのに適した、エッジの利いたグランドピアノ音色です。
ポップ	明るめのグランドピアノ音色です。弾き語りやポピュラー系の音楽演奏に適しています。

低音部専用の音色（ベース）について

7ページの手順1で、右端のベース音色（BASS LOWER）を選んだ場合には、低音部（左側）の鍵盤だけが選んだ音色になり、高音部（右側）の鍵盤には前の音色がそのまま残ります。

- このように鍵盤が分かれて、それぞれ別々の音色で弾ける機能を「スプリット」と呼びます。



メモ

- ベース以外の音色を選ぶと、通常の1音色の状態に戻ります。
- 録音機能のトラック2の録音では、ベース音色は選べません。
- ダンパーペダルやソステヌートペダルを踏んだとき余韻を長くする効果が、ベース音色にもかかるように設定できます。詳細は、27ページの「ベースのダンパー効果」の項目を参照してください。

アコースティックシミュレーターを使ってピアノの音の特徴を調整する

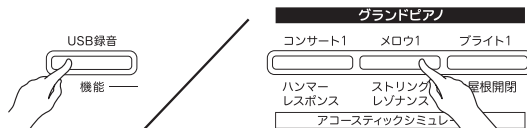
本機のピアノ音色は、アコースティックピアノの響きを特徴付ける要素を内蔵しています。この機能を使いそれぞれの要素を4段階で調整できます。

- **ハンマーレスポンス**
鍵盤を押してから音が鳴るまでの時間のズレを調整します。
設定値
1：速め 2：グランドピアノのイメージ 3：やや遅め 4：遅め
- **ストリングレゾナンス**
アコースティックピアノ特有の響き方（弦の共鳴）を調整します。演奏する曲やイメージにあった響きを選ぶことができます。
設定値
1：抑えめ 2：やや抑えめ 3：響く 4：よく響く
- **大屋根開閉**
グランドピアノの大屋根の開き具合による音の鳴り方の違いを調整します。
設定値
1：大屋根を閉じている状態
2：大屋根を少し開けている状態
3：大屋根が全開の状態
4：大屋根を取り外している状態

メモ

- 本機の天板を開閉しても、大屋根開閉の設定値は変化しません。

1. 機能ボタンを押しながら、設定したい要素に対応しているボタンを押します。



- ボタンを押すたびに、1（ピッ）→ 2（ピピッ）→ 3（ピピピッ）→ 4（ピピピピッ）→ 1（ピッ）と音が鳴り、設定値が切り替わります。
- 各ボタンのランプは、選んだ要素が標準値に設定されているときに点灯します。

メモ

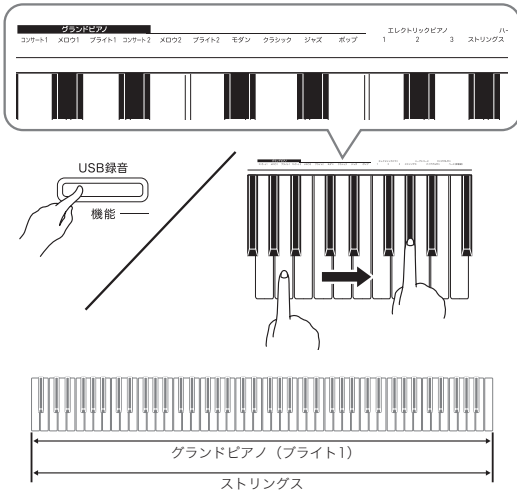
- ピアノ音色には、他に次の要素があります。
- **キーオフシミュレーター**
鍵盤から指を離れたときの音の減衰

2つの音色を重ねてみる (レイヤー)

本機では、2種類の音色を重ねて演奏できます。2つの鍵盤中、先に押した鍵盤の音色がメインの音色、後に押した鍵盤の音色がレイヤー音色として設定されます。

1. 機能ボタンを押しながら、重ねたい音色に対応している鍵盤を1つずつ順に押します。

例：最初にグランドピアノ（ブライト1）鍵盤を押して、次にストリングス鍵盤を押す。



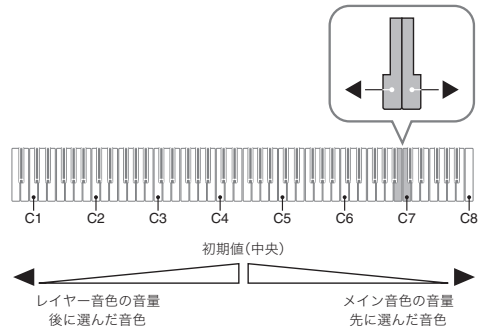
2. 元の1音色の状態に戻すには、グランドピアノボタンを押す、など音色を選び直します。

メモ

- ベース（低音部）は、他の音色と重ねることはできません。
- 録音機能のトラック2の録音では、レイヤーの設定はできません。

重ねている2種類の音色の音量バランスを調整するには

1. 機能ボタンを押したまま、以下の鍵盤を押します。



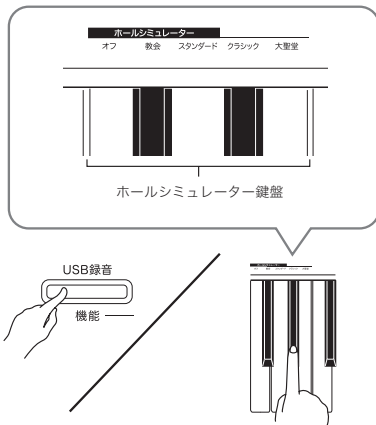
- 機能ボタンを押したまま、上記2つの鍵盤を一緒に押すと、初期の設定になります。

音色に効果をかけてみる (エフェクト)

ホールシミュレーター..... 残響の効果
コーラス..... 音が広がるような効果

ホールシミュレーターをかけるには

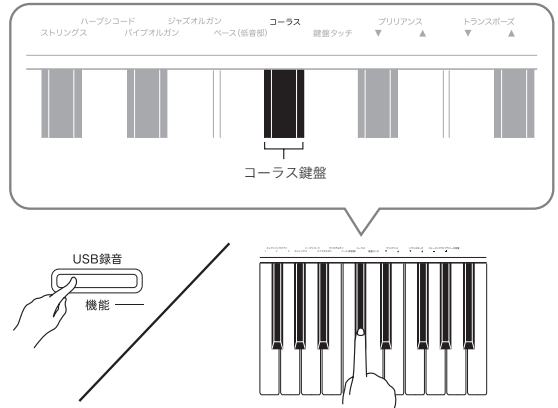
1. 機能ボタンを押したまま、選びたいホールシミュレーターに対応している鍵盤を押します。



名称	説明
教会	音楽に適した響きをもつアムステルダム教会
スタンダード	一般的なコンサートホール
クラシック	ベルリンのアリーナ形式クラシックコンサートホール
大聖堂	パリのゴシック建築大聖堂

コーラスをかけるには

1. 機能ボタンを押したまま、コーラス鍵盤を必要な回数分押しして設定値を選びます。
 - コーラス鍵盤を押すごとに、下の表にある回数だけピーという音が鳴り、現在の設定を示します。



- コーラス

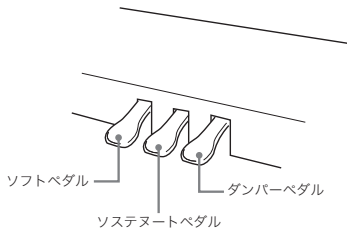
音が鳴る回数	設定
1 (長い音)	オフ
1 (短い音)	コーラス効果薄め
2	コーラス効果中位
3	コーラス効果深め
4	フランジャー (音にうねりを与える)

DSPについて

複合的な音響効果をデジタル処理で実現させる効果です。音色ごとにあらかじめかかっています。

ペダルを使ってみる

ダンパー、ソフト、ソステヌートの3つのペダルがあります。



【各ペダルの動き】

● ダンパーペダル

演奏中にこのペダルを踏むと、鍵盤で弾いた音の余韻が長くなります。

- グランドピアノ音色を選んでいる場合は、実際のグランドピアノでダンパーペダルを使用しているときのような共鳴効果(ダンパーレゾナンス)も生み出せます。また、途中で踏んで軽く効果をかける「ハーフペダル」にも対応しています。

● ソフトペダル

演奏中にこのペダルを踏むと、ペダルを踏んでから鍵盤で弾いた音が弱まるだけでなく、音色が柔らかく聴こえる効果が得られます。

● ソステヌートペダル

このペダルを踏んだ時点で押さえている鍵盤の音だけ、ペダルを離すまで余韻が長くなる効果が得られます。

📌 メモ

- ペダルを踏んでも効果がかからないときは、ペダルコードの接続が不完全な場合があります。45ページの「コード類を接続する」の手順1を参照してください。

ダンパーノイズを鳴らさないようにするには

ダンパーノイズとは、アコースティックピアノでダンパーペダルを踏むと、ダンパーがピアノ線から離れる際に発する小さな「シャーン」という音のことです。

本機のダンパーレゾナンスには、このダンパーノイズが含まれています。

下記の操作で、ダンパーノイズを鳴らすか鳴らさないかを選択できます。

1. 機能ボタンを押したまま、ダンパーノイズ鍵盤を押します。

- 使用する鍵盤は、26ページの「設定に使用する鍵盤一覧」で確認してください。
- 押すごとに音が鳴り、設定が切り替わります。
 - ピーという音：ダンパーノイズを鳴らさない
 - ピツという短い音：ダンパーノイズを鳴らす

メトロノームを鳴らしてみる

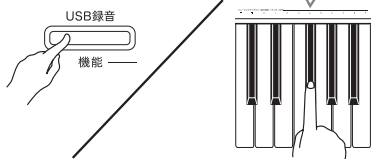
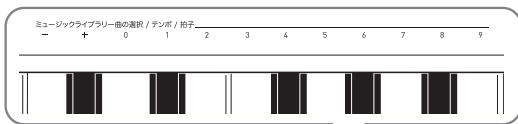
1. メトロノームボタンを押します。

- メトロノームが鳴ります。
- 再生/停止 ▶/■ ボタン上のランプが拍に合わせて点滅します。

2. 機能ボタンを押したまま、メトロノームの拍子鍵盤を押します。

- そのまま機能ボタンを押し続けて、手順3へ進みます。

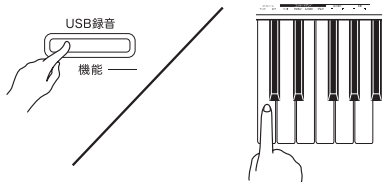
3. 機能ボタンを押したまま、拍子鍵盤の数値入力鍵盤(0~9)を一つ押して、設定したい拍子を選びます。



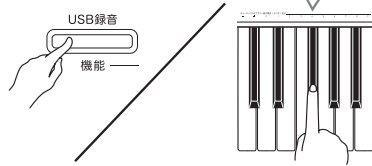
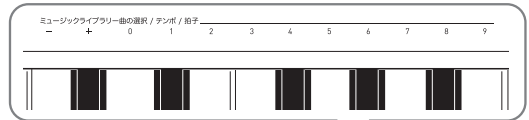
- 拍子は、0~9の中から選ぶことができます。1拍目にベル音が鳴り、残りはクリック音が鳴ります。「0」を設定すると、ベル音は鳴らずにクリック音のみが鳴ります。拍子に関わらず練習するのに便利です。

4. いったん機能ボタンを離れたあと、再び機能ボタンを押したまま、メトロノームのテンポ鍵盤を押します。

- そのまま機能ボタンを押し続けて、手順5へ進みます。



5. 機能ボタンを押したまま、テンポ鍵盤を押してテンポ(20~255)を設定します。



- +/- 鍵盤を押すと、テンポがひとつずつ上下します。
- 数値入力鍵盤(0~9)を押して、テンポの値を直接入力することもできます。

6. メトロノームを止めるには、メトロノームボタン、または再生/停止 ▶/■ ボタンを押します。

メモ

- 数値入力鍵盤で拍子やテンポを入力した場合、設定範囲内の数値であれば、機能ボタンを離れたときピッと音が鳴ります。設定範囲外の数値であれば、ブーという音が鳴ります。
- 上記の手順4および5にあるテンポの値の入力は、次の方法でも操作できます。
 - メトロノームボタンを押したまま、テンポ鍵盤を押す。
- 手順5で +/- 鍵盤を一緒に押すと、最後に選んだコンサートプレイのレッスン曲/ミュージックライブラリー曲のテンポ(録音機能を使っている場合は120)になります。

メトロノームの音量の設定

メトロノームが鳴っている/鳴っていないにかかわらず設定できます。

1. 機能ボタンを押したまま、「メトロノームの音量」鍵盤を押して音量(0~42)を設定します。

- 使用する鍵盤は、26ページの「設定に使用する鍵盤一覧」で確認してください。
- ▼▲ 鍵盤を押すと、メトロノームの音量がひとつずつ上下します。

メモ

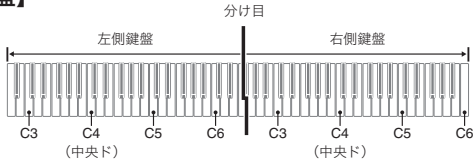
- ▼▲ 鍵盤を一緒に押すと、最初の設定(初期値)に戻ります。

2台ピアノにして弾いてみる (デュエット)

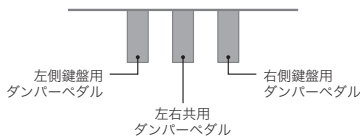
鍵盤を中央から左右に分けて、2台ピアノにして連弾ができます。左右の鍵盤はほぼ同じ音域になり、両端のペダルもそれぞれ左側鍵盤用と右側鍵盤用のダンパーペダルになります。

左側で先生がお手本演奏をして、右側で生徒さんが同じメロディーを弾く、といった活用もできます。

【鍵盤】



【ペダル】



📌メモ

- 3本のペダルのうち、右側鍵盤用ダンパーペダルのみハーフペダルに対応します。

1. 2台ピアノで弾きたい音色を選びます。

例：グランドピアノ（コンサート1）

2. 機能ボタンを押しながら、メトロノームボタンを押すことに、デュエット設定のオン・オフが切り替わります。

👉重要!

- デュエットオンでの録音（19ページ）はできません。
- デュエットオンの時は、ハンマーレスポンス、ストリングレゾナンス、およびリドシミュレーターの設定は変更できません。

📌メモ

- デュエットオンの時に、左側鍵盤の音は左スピーカーからのみ、右側鍵盤の音は右スピーカーからのみ出るように設定できます。詳細は、27ページの「デュエットのパン」の項目を参照してください。

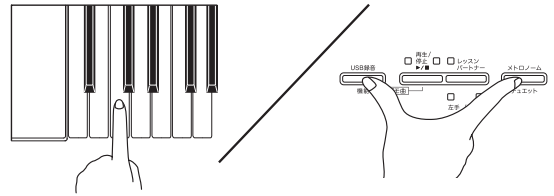
音域を変更するには

最初の設定から、左右の鍵盤それぞれの音域をオクターブ単位で変更できます。

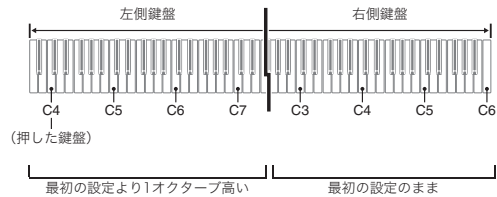
例えばピアノ曲の左手パートと右手パートを2人で分担して演奏しようとする、最初の設定では音域が足りなくながちです。そのような場合に曲に合わせて音域を変更できます。

1. 機能ボタンとメトロノームボタンを2つ一緒に押したまま、左側鍵盤でC4（中央ド）の高さに設定したいC（ド）の鍵盤を押します。そのまま機能ボタンとメトロノームボタンを押し続けて、手順2へ進みます。

C4の音が鳴って、左側鍵盤の音域が変更されます。



例：左端のC（ド）の鍵盤を押した場合は、以下の音域になります。



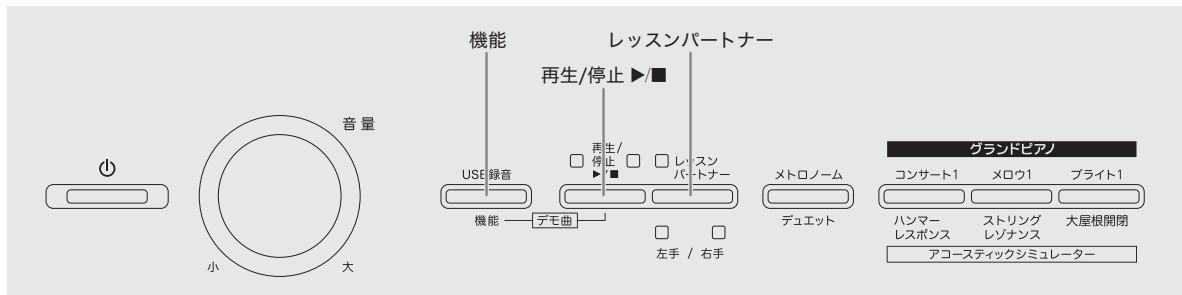
2. 機能ボタンとメトロノームボタンを2つ一緒に押したまま、右側鍵盤でC4（中央ド）の高さに設定したいC（ド）の鍵盤を押します。

C4の音が鳴って、右側鍵盤の音域が変更されます。

📌メモ

- デュエットオンを解除してもう一度オンにすると、最初の音域設定に戻ります。

内蔵曲を活用する(コンサートプレイ、ミュージックライブラリー、デモ演奏)



本機には、ピアノとオーケストラの合奏曲「コンサートプレイ」が10曲（1～10番）と、ピアノソロ曲「ミュージックライブラリー」が60曲（1～60番）内蔵されています。コンサートプレイでは、オーケストラ演奏に合わせてピアノの演奏を楽しむことができます。ミュージックライブラリーでは、ピアノの名曲の練習ができます。

- デモ演奏で、コンサートプレイの全10曲を連続して鑑賞することができます。

重要!

- 本機では、曲を変更すると数秒間、曲データの読み込みを行います。読み込み中は鍵盤演奏やボタン操作ができません。また、鍵盤演奏中にこの操作を行うと発音が停止します。

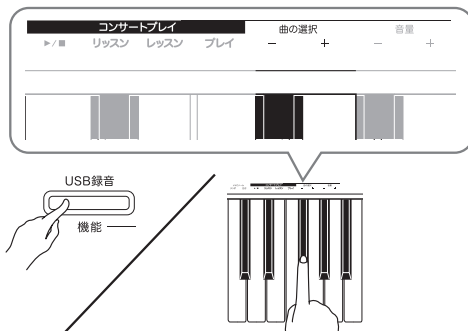
デモ演奏を聴いてみる

1. 機能ボタンを押しながら、再生/停止 ▶/■ボタンを押します。

- コンサートプレイの1番の曲から始まります。
- コンサートプレイの10曲を番号順に再生します。
- デモ演奏にあわせて、メロディー音色で鍵盤演奏できます。

2. デモ演奏の曲を変更するには、機能ボタンを押したまま、コンサートプレイ曲の選択鍵盤（+、-）を押します。

- +/-鍵盤を押すと、曲の番号がひとつずつ上下します。
- 曲のリストは、52ページ「コンサートプレイリスト」を参照してください。



3. デモ演奏を止めるには、再生/停止 ▶/■ボタンを押します。

メモ

- デモ演奏中は、上記の曲変更と演奏停止以外の操作はできません。

コンサートプレイ

オーケストラの生演奏を収録したコンサートプレイを使うと、ピアノとオーケストラの合奏が楽しめます。また、3つのステップで合奏の練習もできます。

ステップ1：リッスン

お手本に、ピアノとオーケストラの合奏を聴いてみましょう。

ステップ2：レッスン

ピアノパートを練習してみましょう。

- 曲の右手パートまたは左手パートの音を消して、自分で弾く練習ができます。

ステップ3：プレイ

オーケストラと合奏をしてみましょう。

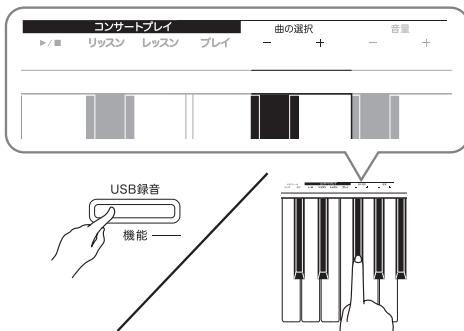
- コンサートプレイの内蔵曲は10曲（1～10番）です。
- コンサートプレイはオーケストラの生演奏を収録しているため、使われている音色は本機で選択できる音色（7ページ）と異なります。また、演奏者の息づかいや演奏ノイズも含まれています。

コンサートプレイの曲を練習してみる

演奏のお手本を聴いてみる（リッスン）

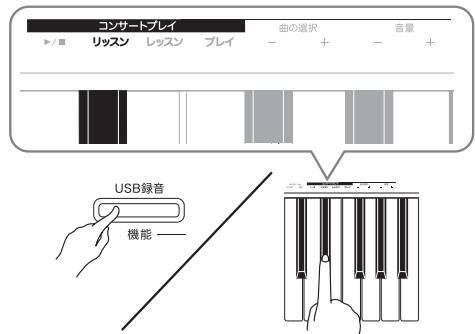
1. 機能ボタンを押したまま、コンサートプレイ曲の選択 $\blacktriangleright/\blacksquare$ 鍵盤を押して、曲番号（1～10）を選びます。

- 曲のリストは、52ページ「コンサートプレイリスト」を参照してください。



2. 機能ボタンを押したまま、リッスン鍵盤を押します。

- ピアノとオーケストラの合奏が聴ける「リッスンモード」になります。
- リッスンモードではテンポを変更することはできません。



3. 機能ボタンを押したまま、コンサートプレイ $\blacktriangleright/\blacksquare$ 鍵盤を押して再生します。

- 曲を最後まで再生すると自動的に演奏が止まります。

4. 途中で演奏を止めるには、もう一度機能ボタンを押したまま、コンサートプレイ $\blacktriangleright/\blacksquare$ 鍵盤を押します。

メモ

- 曲の音量を変更することができます。設定方法は、25ページ「その他の設定」を参照してください。

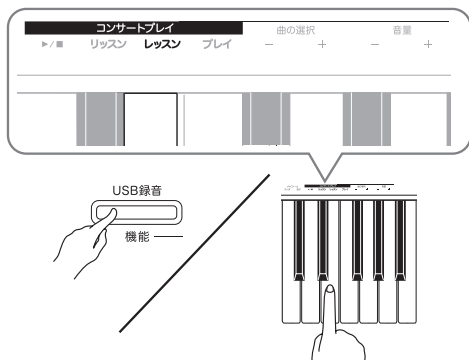
ピアノパートを練習してみる（レッスン）

準備

- 曲のテンポを変更できます。設定方法は、25ページ「その他の設定」を参照してください。
- 曲を演奏しているときは、曲調に変化をつけるためにテンポが変化します。

1. 機能ボタンを押したまま、レッスン鍵盤を押します。

- ピアノパートと簡単な伴奏が流れる「レッスンモード」になります。



2. 機能ボタンを押しながら、レッスンパートナー（左手/右手）ボタンを押して、音を消したいパートを選びます。

- ボタンを押すごとにボタン下の2つのランプがそれぞれ点灯/消灯します。消したいパートのランプを消灯させます。



3. 機能ボタンを押したまま、コンサートプレイ ▶/■鍵盤を押します。

- 演奏が始まります。手順2で選んだパートは鳴りません。

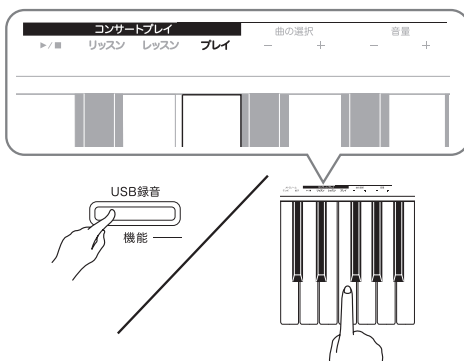
4. 音を消したパートを自分で弾きます。

5. 曲を止めるには、もう一度機能ボタンを押したまま、コンサートプレイ ▶/■鍵盤を押します。

オーケストラと合奏してみる（プレイ）

1. 機能ボタンを押したまま、プレイ鍵盤を押します。

- ピアノパートの音が消えてオーケストラの音だけ流れる、「プレイモード」になります。



2. 機能ボタンを押したまま、コンサートプレイ ▶/■鍵盤を押して再生します。

- プレイモードではテンポを変更することはできません。

3. ピアノパートを自分で弾きます。

4. 途中で演奏を止めるには、もう一度機能ボタンを押したまま、コンサートプレイ ▶/■鍵盤を押します。

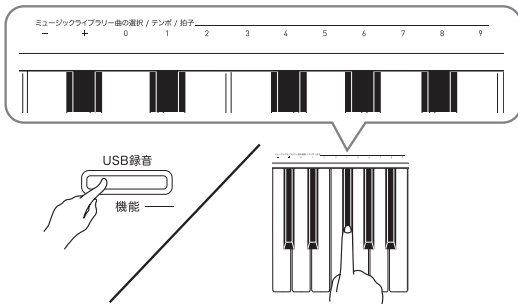
ミュージックライブラリー

ミュージックライブラリーを使って、ピアノの名曲の鑑賞と練習ができます。

- ミュージックライブラリーの内蔵曲は60曲（1～60番）です。
 - パソコンから本機に読み込んだ曲※も、ミュージックライブラリーの61～70番の曲として再生や練習ができます。
- ※ インターネットでダウンロードした曲をパソコンから転送します。詳しくは、40ページの「本機で録音した曲をパソコンに保存する／パソコンの曲データを本機に読み込む」を参照してください。

ミュージックライブラリーの曲を1曲ずつ聴いてみる

1. 52ページ「ミュージックライブラリーリスト」で、選みたい曲の番号を調べます。
2. 機能ボタンを押したまま、ミュージックライブラリー曲の選択鍵盤（+、-、0～9）を押して、曲を選びます。
 - +/- 鍵盤を押すと、曲の番号がひとつずつ上下します。
 - 数値入力鍵盤（0～9）を押して、曲の番号を直接入力することもできます。



3. 再生/停止 ▶/■ボタンを押します。
 - 選んだ曲の演奏が始まります。
4. 演奏を止めるには、もう一度再生/停止 ▶/■ボタンを押します。
 - 曲が最後まで演奏されると自動的に演奏が止まります。

メモ

- +/- 鍵盤を一緒に押すと、1番の曲が選ばれます。
- 演奏のテンポや曲の音量を設定できます。設定方法は、25ページの「その他の設定」を参照してください。

ミュージックライブラリーの曲を練習してみる

曲の右手パートまたは左手パートの音を消して、自分で弾く練習ができます。

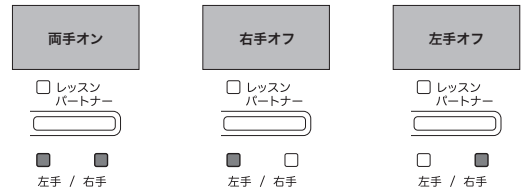
メモ

- ミュージックライブラリーには、連弾曲が入っています。連弾曲を選んだ場合は、第1ピアノ<Primo>または第2ピアノ<Secondo>の音を消して、自分で弾く練習ができます。

準備

- 曲を選び、テンポを設定しておきます（12ページの「メトロノームを鳴らしてみる」の手順3参照）。
- 曲を演奏しているときは、曲調に変化をつけるためにテンポが変化します。

1. 機能ボタンを押しながら、レッスンパートナー（左手/右手）ボタンを押して、音を消したいパートを選びます。
 - ボタンを押すことに左手、右手のランプがそれぞれ点灯/消灯します。消したいパートのランプを消灯させます。



2. 再生/停止 ▶/■ボタンを押します。
 - 演奏が始まります。手順1で選んだパートは鳴りません。
3. 音を消したパートを自分で弾きます。
4. 曲を止めるには、もう一度再生/停止 ▶/■ボタンを押します。

USBメモリーに保存したオーディオデータを再生するには

市販のUSBメモリーに保存したオーディオデータ（WAVファイル※）を本機で再生することができます。

詳しくは、31ページの「USBメモリーを使用したデータの管理」を参照してください。

※ リニアPCM、16bit、44.1kHz、Stereo

準備

- 本機のUSB録音機能で録音したデータが保存されているUSBメモリーを用意します。詳しくは、22ページの「USB録音（USBメモリーへの録音）」を参照してください。
- または、パソコンでUSBメモリー内に再生したいオーディオデータ（WAVファイル）を保存します。詳しくは、32ページの「外部のオーディオデータ（WAVファイル）をUSBメモリーに保存するには」を参照してください。
- 本機のUSBメモリー端子に、再生したいオーディオデータが保存されているUSBメモリーを差し込みます。

メモ

<USB録音、機能ボタンについて>

このボタンのみを押した場合は、「USB録音ボタン」として機能します。このボタンを押しながら、他のボタンや鍵盤を押した場合、「機能ボタン」として機能します。

1. USB録音ボタンを押します。ボタンを押し続けず、すぐに離してください。

- 再生/停止 ▶/■ボタンの2つのランプが点灯します。



2. レッスンパートナーボタンを押して、ボタンのランプを点灯させます。

3. 機能ボタンを押したまま、ミュージックライブラリー曲の選択鍵盤を押して、曲を選びます。

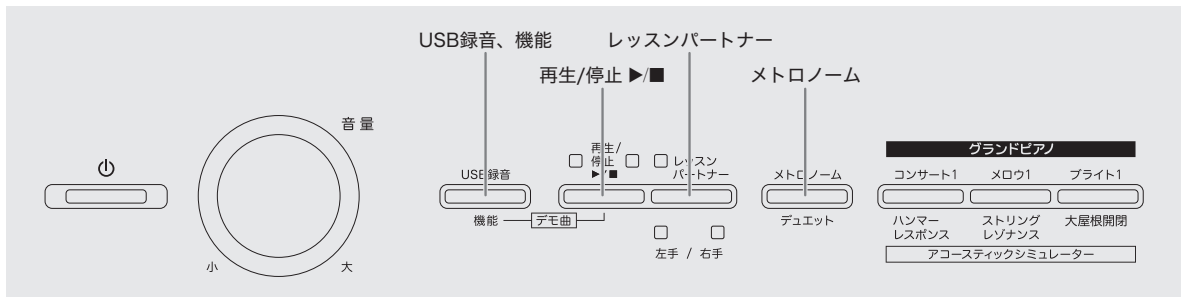
- +鍵盤を押すごとに、曲がファイル名順（TAKE01.WAV, TAKE02.WAV, ...）に選ばれます。
- -鍵盤を押すごとに、曲がファイル名と逆順に選ばれます。
- 0~9鍵盤で番号を指定すると、直接その番号のファイルが選ばれます。その番号に該当するファイルが保存されていない場合は、ピーツと音が鳴ります。

4. USB録音ボタンを押しながら、再生/停止 ▶/■ボタンを押します。

- 選んだ曲の再生が始まります。

5. 曲を止めるには、再生/停止 ▶/■ボタンを押します。

演奏を録音／再生してみる(録音機能)



本機で演奏した内容を内蔵のメモリーへ録音して、再生できます(レッスンパートナー)。また、本機のUSBメモリー端子へ市販のUSBメモリーを装着した場合は、USBメモリーへオーディオデータとして録音され、再生ができます(USB録音)。

レッスンパートナーでの録音

レッスンパートナー

レッスンパートナーは、レッスンに活用できる機能です。右手・左手を別々に録音・再生することや、テンポを変えて演奏することができます。

トラックについて

曲は2つのトラック(録音内容が記録される場所)で構成されています。トラック1、トラック2と順番に録音していけば、録音後に2つのトラックを1つの曲として、一度に再生することができます。



録音できる容量

- 約5,000音符まで録音できます。
- 録音できる容量が残り少なくなると、ランプの点滅が速くなります。
- 演奏の途中で録音できる容量をこえると、自動的に録音が止まります。

録音される内容

- 鍵盤演奏
- 演奏に使った音色
- ペダル操作
- ホールシミュレーター／コーラス設定(トラック1のみ)
- テンポ設定(トラック1のみ)
- レイヤー設定(トラック1のみ)
- スプリット設定(トラック1のみ)
- オクターブシフト設定(トラック1のみ)

録音内容の保持

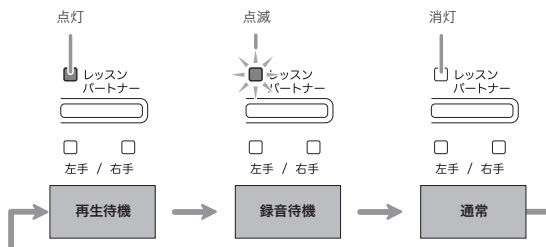
- 新しく録音した時点で、前の録音内容は消去されます。
- 録音中に電源が切れると、録音してあった内容はすべて消去されます。

重要!

- 本機の故障、修理などによる録音内容の消去により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

レッスンパートナーボタンでの録音方法

レッスンパートナー(左手/右手)ボタンを、1回押すごとに以下のように状態が切り替わります。



トラックを選んで録音するには

トラック1か2を選んで録音し、さらに録音したトラックの再生に合わせてもう一方のトラックに録音できます。

1. レッスンパートナーボタンを2回押して、ボタンのランプを点滅させます。



- 左手ランプが点滅し、トラック1へ録音待ちの状態になります。



2. 機能ボタンを押しながら、レッスンパートナー(左手/右手)ボタンを押して、録音するトラックを選びます。

- 録音したいトラックのランプを点滅させます。

トラック1: 左手ランプ
トラック2: 右手ランプ

例: トラック1を選ぶ



3. 録音に使う音色やエフェクト（トラック1のみ）を設定しておきます。

- 音色（7ページ）
- エフェクト（10ページ）

メモ

- メトロノームを鳴らしたい場合は、拍子とテンポを設定して、**メトロノーム**ボタンを押します。設定方法は12ページの「メトロノームを鳴らしてみる」を参照してください。

4. 演奏を開始します。

- 自動的に録音が始まります。

5. 録音を止めるには、再生/停止 ▶/■ボタンを押します。

- **レッスンパートナー**ボタンと録音したトラックのランプが、点滅から点灯に変わります。
- 録音した内容をすぐに再生したい場合は、もう一度**再生/停止 ▶/■**ボタンを押します。

6. 録音や再生が終わったら、レッスンパートナーボタンを押して、ボタンのランプを消灯させておきます。

録音済みのトラックの演奏を聴きながら、もう一方のトラックに録音するには

1. レッスンパートナーボタンを押して、ボタンのランプを点灯させます。



2. 機能ボタンを押しながら、レッスンパートナー(左手/右手)ボタンを押して、録音済みのトラックのランプを点灯させます。

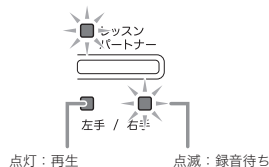
3. レッスンパートナーボタンを押して、ボタンのランプを点滅させます。

- 左手ランプが点滅します。

4. 機能ボタンを押しながら、レッスンパートナー(左手/右手)ボタンを押して、録音するトラックを選びます。

- 録音するトラックのランプを点滅させます。

例: 録音済みのトラック1を聴きながら、トラック2へ録音する



5. 必要に応じて、録音に使う音色やエフェクト（トラック1のみ）を設定しておきます。

6. 再生/停止 ▶/■ボタンか鍵盤を押して、演奏を開始します。

- トラック1の再生と、トラック2への録音が同時に始まります。

7. 録音を止めるには、再生/停止 ▶/■ボタンを押します。

録音した演奏を再生してみる

1. レッスンパートナーボタンを押して、ボタンのランプを点灯させます。



メモ

- 両方のトラックに録音済みの場合、一方のトラックの音を消して再生できます。音を消したいトラックのランプを消灯させます。

2. 再生/停止 ▶/■ボタンを押します。

- 録音した内容が再生されます。

メモ

- 再生時は、テンポを変えることができます。
- 途中で止めるときには、もう一度再生/停止 ▶/■ボタンを押します。

録音した内容を消去するには

録音した内容をトラック単位で消去します。

重要!

- 以下の操作を完了すると同時に、録音した内容が消去され、元に戻すことはできません。消去しようとしている内容を一度再生して、消去してもよいことをご確認の上、以下の操作を行うことをお勧めします。

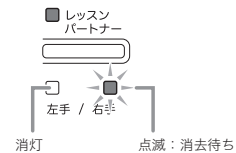
1. レッスンパートナーボタンを2回押して、ボタンのランプを点滅させます。



2. 機能ボタンを押しながら、レッスンパートナー(左手/右手)ボタンを押して、消去したいトラックを選びます。

3. レッスンパートナーボタンを押し続けて、ボタンのランプを点灯させます。

- 手順2で選んだトラックのランプが点滅します。
例：消去するトラックにトラック2を選んだ場合



4. もう一度、機能ボタンを押しながら、レッスンパートナー(左手/右手)ボタンを押します。

- 選んだトラックの録音内容が消去され、再生待機の状態になります。
- 操作を中止したい場合は、レッスンパートナーボタンを2回押してボタンのランプを消灯させます。

メモ

- 上記の手順3から手順4で消去を実行するまでの間は、レッスンパートナー(左手/右手)ボタン以外の操作はできません。

USB録音（USBメモリーへの録音）

本機で演奏した内容が、すべてオーディオデータ（WAVファイル※）としてUSBメモリーへ録音されます。また、レッスンパートナーに録音されているデータを再生しながら鍵盤演奏をすると、その内容も一緒にUSBメモリーに録音されます。

※ リニアPCM、16bit、44.1kHz、Stereo

録音できる容量

- 99ファイル（No.01～99）
- 1ファイルあたり、最大録音時間約25分まで。

録音される内容

- 本機でのすべての演奏
- パート別に録音できません

録音内容の保持

USBメモリーに録音されるオーディオデータは、録音毎に上書きはされず、自動的にファイル名を変更して保存されます。

鍵盤演奏をUSB録音してみる

準備

- 使用するUSBメモリーを事前に本機でフォーマットしておきます。詳しくは、31ページの「USBメモリーを使用したデータの管理」を参照してください。

1. USBメモリーを本機のUSBメモリー端子に装着します。

- USBメモリーを本機に装着して最初にUSBメモリーを操作するとき、本機のシステムがUSBメモリーとデータをやり取りする準備（マウント）を行うため、一時的に本機の操作が効かなくなります。マウント中は、左手/右手ランプが点滅しています。本機がマウントを完了し、操作が可能になるまで数十秒間かかることがあります。マウント中は、本機を操作しないでください。マウントは、本機にUSBメモリーを装着するたびに実行されます。

2. USB録音ボタンを押します。ボタンを押し続けず、すぐに離してください。

- 再生/停止 ▶/■ボタンの2つのランプが点灯します。



3. レッスンパートナーボタンを押して、ボタンのランプを点灯させます。



4. 演奏を開始します。

- レッスンパートナーボタンのランプが1、2回点滅し、USBメモリーへの録音を開始します。

メモ

- 再生/停止 ▶/■ボタンの2つのランプが点灯または点滅しているときは、USBメモリーをUSBメモリー端子から抜かないでください。録音が中断され、データが破損したりする場合があります。

5. 録音を止めるには、USB録音ボタンを押します。

- 再生/停止 ▶/■ボタンの2つのランプが同時に3～4回点滅して、USB録音が停止します。続けて録音したい場合は、上記の手順4から操作してください。録音した内容をすぐに再生したいときは、23ページの「USBメモリーに録音した演奏を再生する」の手順3から操作してください。USB録音／再生の操作を終了するときは、USB録音ボタンを短く押してください。

レッスンパートナーに録音したデータを再生しながら、鍵盤演奏を録音してみる（USB録音）

1. USB録音ボタンを押します。ボタンを押し続けず、すぐに離してください。

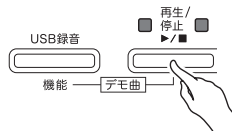
- 再生/停止 ▶/■ボタンの2つのランプが点灯します。



2. レッスンパートナーボタンを押して、ボタンのランプを点灯させます。



3. 再生/停止 ▶/■ボタンを押します。



- レッスンパートナーに録音されている内容が再生されるので、それに合わせて演奏します。

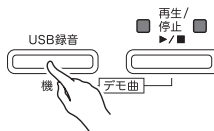
4. 録音を止めるには、USB録音ボタンを押します。

- **再生/停止 ▶/■**ボタンの2つのランプが同時に3～4回点滅して、USB録音が停止します。続けて録音したい場合は、22ページの「鍵盤演奏をUSB録音してみる」の手順4 から操作してください。録音した内容をすぐに再生したいときは、23ページの「USBメモリーに録音した演奏を再生する」の手順3 から操作してください。USB録音／再生の操作を終了するときは、**USB録音**ボタンを短く押してください。

USBメモリーに録音した演奏を再生する

1. USB録音ボタンを押します。ボタンを押し続けず、すぐに離してください。

- **再生/停止 ▶/■**ボタンの2つのランプが点灯します。



2. レッスンパートナーボタンを押して、ボタンのランプを点灯させます。



3. USB録音ボタンを押しながら、再生/停止 ▶/■ボタンを押します。

- 最後に録音した曲が再生されます。

<ファイルを選んで再生したい場合>

- 機能ボタンを押したまま、ミュージックライブラリー曲の選択鍵盤を押して、曲を選びます。
- -鍵盤を押すごとに、録音した曲がさかのぼって選ばれます。
 - +鍵盤を押すごとに、曲がファイル番号順に選ばれます。
 - 0～9鍵盤で番号（1～99）を指定すると、直接その番号のファイルが選ばれます（TAKE01.WAV, TAKE02.WAV...）。その番号に該当するファイルが保存されていない場合は、ピーツと音が鳴ります。

4. 曲を止めるには、再生/停止 ▶/■ボタンを押します。

USB録音の音量を調節するには

USBメモリーに録音したオーディオデータの音量を調節できます。

1. 機能ボタンを押したまま、USB録音の音量鍵盤を押します。

- 使用する鍵盤は、26ページの「設定に使用する鍵盤一覧」で確認してください。
- +/-鍵盤を押すと、音量がひとつずつ上下します。

メモ

- +/-鍵盤を一緒に押すと、最初の設定（初期値）に戻ります。

USBメモリーに録音したオーディオファイルを 消去するには

録音した内容をファイル単位で消去します。

重要!

- 以下の操作を完了すると同時に、録音した内容が消去され、元に戻すことはできません。消去しようとしている内容を一度再生して、消去してもよいことをご確認の上、以下の操作を行うことをお勧めします。

1. USB録音ボタンを押します。

- 再生/停止 ▶/■ボタンの2つのランプが点灯します。

2. レッスンパートナーボタンを2回押して、ボタンのランプを点滅させます。



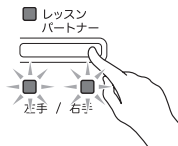
3. 最後に録音した曲を消去したい場合は、このまま手順4へ進みます。

<ファイルを選んで消去したい場合>

機能ボタンを押したまま、ミュージックライブラリー曲の選択鍵盤を押して、曲を選びます。

- 鍵盤を押すごとに、録音した曲がさかのぼって選ばれます。
- + 鍵盤を押すごとに、曲がファイル番号順に選ばれます。
- 0~9鍵盤で番号（1~99）を指定すると、直接その番号のファイルが選ばれます（TAKE01.WAV, TAKE02.WAV...）。その番号に該当するファイルが保存されていない場合は、ビーツと音が鳴ります。

4. レッスンパートナーボタンを押し続けて、左手/右手両方のランプを点滅させます。



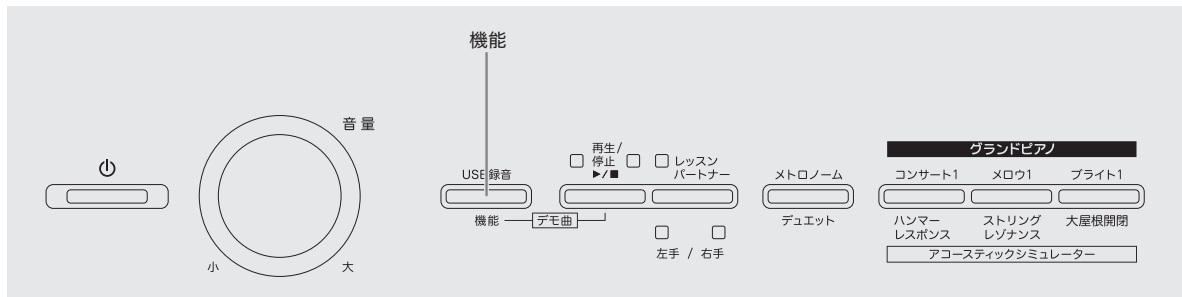
5. もう一度、機能ボタンを押しながら、レッスンパートナーボタンを押します。

- ファイル消去が終わると、レッスンパートナーの再生待機状態になります。
- 操作を中止したい場合は、レッスンパートナーボタンを2回押してボタンのランプを消灯させます。

メモ

- 特定のファイルを消去して番号に欠番が出て、そのままとなります。新たにUSB録音で録音したときは、欠番しているファイル番号ではなく、最後のファイル番号の次の番号に保存されます。

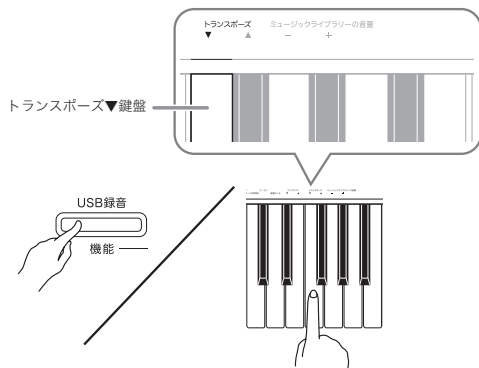
その他の設定



機能ボタンと鍵盤を使って、音色や曲（コンサートプレイ／ミュージックライブラリー）を選ぶだけでなく、音の効果や鍵盤のタッチなどのさまざまな設定ができます。

設定するには

1. 設定したい項目を27～30ページの「設定項目一覧表」から選び、内容を確認します。
2. その項目の設定に使用する鍵盤の位置を、26ページの「設定に使用する鍵盤一覧」で確認します。
3. 機能ボタンを押しながら、手順2で確認した鍵盤を押して設定を行います。
 - 設定が完了すると、お知らせのための操作音が鳴ります。例：トランスポーズの設定で、半音下げるには、トランスポーズ▼鍵盤を一回押します。



4. 機能ボタンから指を離して、設定を終了します。

メモ

- 手順3で操作音が鳴らないようにすることもできます。27～30ページの「設定項目一覧表」の中の「@ 操作音」を参照してください。

鍵盤を押して設定する操作のタイプについて

設定する項目によって、鍵盤操作のタイプが異なります。操作タイプには以下の4種類があります。

タイプA：設定値を直接選ぶ。

例：ストリングス鍵盤を押して、音色の「ストリングス」を選びます。

タイプB：+/-や▼▲鍵盤で、設定値をひとつずつ上下させる。

- 鍵盤を押し続けると、設定値が連続して変化します。
- 2つの鍵盤を一緒に押すと、最初の設定（初期値）に戻ります。

タイプC：数値入力鍵盤（0～9）で設定値を入力する。

例：曲選択20なら、「2→0」と入力します。

タイプD：1つの鍵盤で、オン・オフの切り替えや、設定値を変更する。

- 鍵盤を押すと、設定値に応じてピーという音が鳴ります。
 - オフに切り替えたときは、音が長く鳴ります。
- 例：コーラスの効果がかかっていない（オフ）のときに「コーラス効果中位」へ設定値を変更したい場合、コーラス鍵盤を2回押します（音が2回鳴ります）。

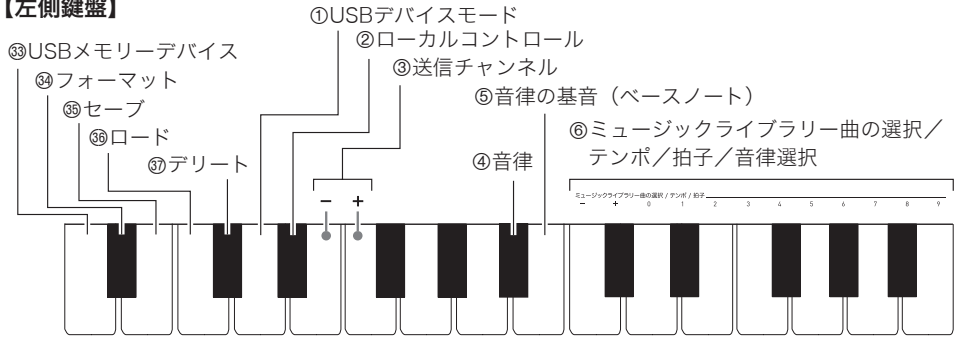
メモ

- 27～30ページの「設定項目一覧表」の中の「操作タイプ」から、設定したい項目の操作タイプを確認してください。

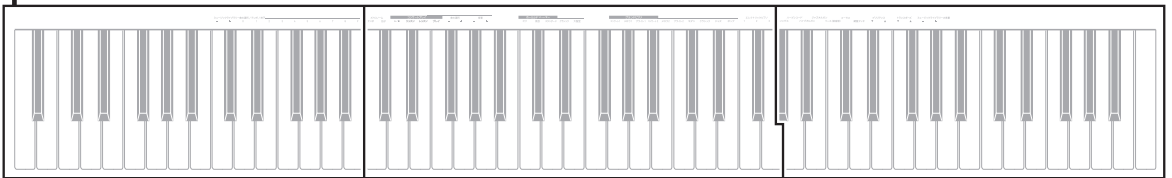
設定に使用する鍵盤一覧

- ①～⑦は27～30ページの「設定項目一覧表」での項目番号です。

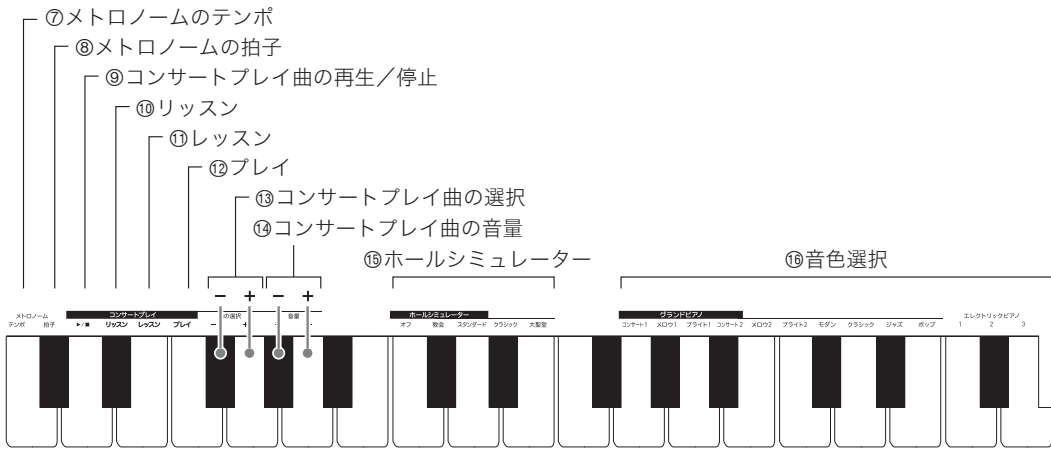
【左側鍵盤】



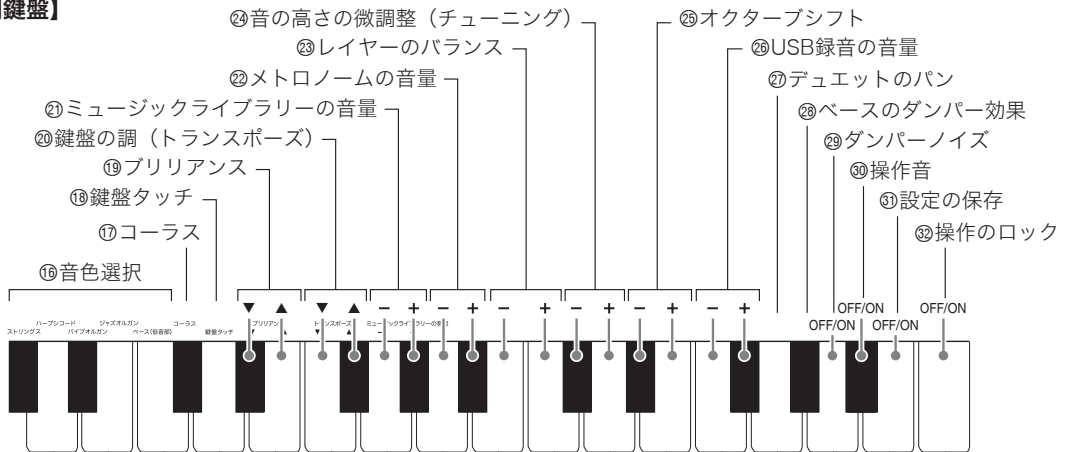
【全体図】



【中央鍵盤】



【右側鍵盤】



設定項目一覧表

■ 音色についての設定

項目	設定値	操作タイプ (25ページ参照)	内容	備考
⑮ ホールシミュレーター	オフ、教会～大聖堂 初期値：スタンダード	A	音の残響効果を設定します。 (10ページ参照)	
⑯ 音色選択	7ページ参照 初期値：グランドピアノ (コンサート1)	A	鍵盤の音色を選びます。 (7ページ参照)	
⑰ コーラス	オフ、1～4 初期値：オフ	D	音に広がりを与える効果を設定します。 (10ページ参照)	
⑲ ブリリアンス	-3～0～3 初期値：0	B	音の明るさを設定します。 +にすると、明るく硬い感じの音になります。-にすると、まるやかな柔らかい感じの音になります。	<ul style="list-style-type: none"> +/-を一緒に押すと、最初の設定 (初期値：0) に戻ります。
㉓ レイヤーのバランス	-24～0～24 初期値：-10	B	メインパートとレイヤーパートの音量バランスを設定します。 (9ページ参照)	<ul style="list-style-type: none"> +/-を一緒に押すと、最初の設定 (初期値：-10) に戻ります。
㉗ デュエットのパン	オフ、オン 初期値：オフ	D	オンにした場合、デュエット時に左側鍵盤の音は左スピーカーからのみ、右側鍵盤の音は右スピーカーからのみ出ます。 (13ページ参照)	<ul style="list-style-type: none"> ピアノ音色のときに有効になります。オンにした場合、ホールシミュレーターをかけることはできません。
㉘ ベースのダンパー効果	オフ、オン 初期値：オフ	D	オンにした場合、ベース音色を選択中にダンパーペダル、またはソステヌートペダルを踏むと、余韻を長くする効果がベース音色にもかかります。 (8ページ参照)	
㉙ ダンパーノイズ	オフ、オン 初期値：オン	D	ダンパーノイズの有無を設定します。 (11ページ参照)	

■ 曲/メトロノームについての設定

項目	設定値	操作タイプ (25ページ参照)	内容	備考
⑥ ミュージックライブラリー曲の選択	1~70 初期値：1	B C	ミュージックライブラリー曲を選びます。 (17ページ参照)	<ul style="list-style-type: none"> 録音機能の使用中は、設定できません。 コンサートプレイ曲の再生中は、設定できません。
⑥ テンポ	20~255 初期値：120	B C	コンサートプレイのレッスンモード/ミュージックライブラリー曲やメトロノーム、録音機能での録音/再生などのテンポを設定します。 (12ページ参照)	録音機能の使用中には、+/-鍵盤を一緒に押すと“120”になります。
⑥ 拍子	0~9 初期値：4	C	メトロノームの拍子を設定します。 (12ページ参照)	
⑦ メトロノームのテンポ	—	—	メトロノームのテンポを設定したいとき、この鍵盤を押して設定モードに入ります。 テンポの値は、⑥テンポ鍵盤を押して入力します。 (12ページ参照)	コンサートプレイ曲を、リッスンモードまたはプレイモードで再生中は設定できません。
⑧ メトロノームの拍子	—	—	メトロノームの拍子を設定したいとき、この鍵盤を押して設定モードに入ります。 拍子の値は、⑥拍子鍵盤を押して入力します。 (12ページ参照)	コンサートプレイ/ミュージックライブラリー曲の再生中は、設定できません。
⑨ コンサートプレイ曲の再生/停止	再生、停止	D	コンサートプレイ曲が再生中の場合は停止、停止中の場合は再生します。 (15ページ参照)	録音機能の使用中は、設定できません。
⑩ リッスン	—	A	コンサートプレイのリッスンモードに入ります。 (15ページ参照)	<ul style="list-style-type: none"> 録音機能の使用中は、設定できません。 ミュージックライブラリー曲の再生中は、設定できません。
⑪ レッスン	—	A	コンサートプレイのレッスンモードに入ります。	<ul style="list-style-type: none"> 録音機能の使用中は、設定できません。 ミュージックライブラリー曲の再生中は、設定できません。
⑫ プレイ	—	A	コンサートプレイのプレイモードに入ります。 (16ページ参照)	<ul style="list-style-type: none"> 録音機能の使用中は、設定できません。 ミュージックライブラリー曲の再生中は、設定できません。
⑬ コンサートプレイ曲の選択	1~10 初期値：1	B	コンサートプレイ曲を選びます。 (15ページ参照)	<ul style="list-style-type: none"> 録音機能の使用中は、設定できません。 ミュージックライブラリー曲の再生中は、設定できません。
⑭ コンサートプレイ曲の音量	0~42 初期値：42	B	コンサートプレイ曲の音量を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> 録音機能の使用中は、設定できません。 ミュージックライブラリー曲の再生中は、設定できません。
⑰ ミュージックライブラリーの音量	0~42 初期値：42	B	ミュージックライブラリーの音量を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> 録音機能の使用中は設定できません。 コンサートプレイ曲の再生中は、設定できません。
⑳ メトロノームの音量	0~42 初期値：36	B	メトロノームの音量を設定します。 (12ページ参照)	

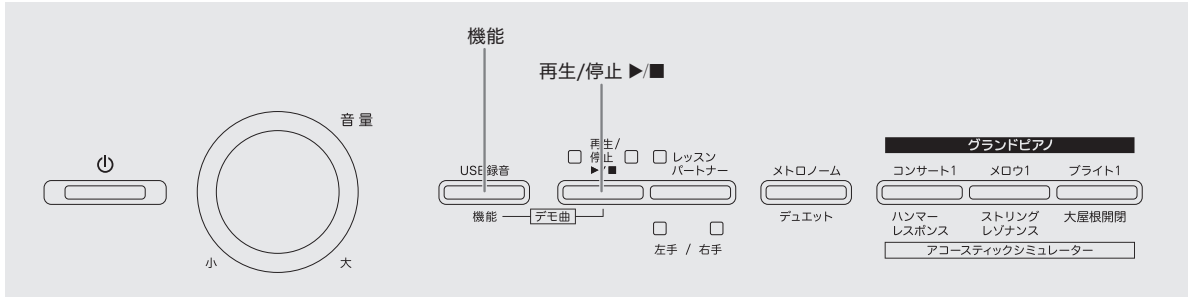
■ 鍵盤の設定

項目	設定値	操作タイプ (25ページ参照)	内容	備考
④ 音律 ⑤ 音律の基音 (ベースノート) ⑥ 音律選択	音律：0~16 ベースノート： -、+、0~9 (C~B) 初期値： 音律：0 (平均律) ベースノート：C	<音律選択> 機能 ボタンを押し続けたまま、以下の鍵盤を順に押して設定します。 1. ④音律鍵盤を押す。 2. ⑥音律選択鍵盤で、音律を選ぶ。 • 次にベースノートを選ぶ場合、いったん 機能 ボタンを離してから、以下の手順を進めてください。 <ベースノート> 機能 ボタンを押し続けたまま、以下の鍵盤を順に押して設定します。 1. ⑤音律の基音鍵盤を押す。 2. ⑥数値入力鍵盤 (-/+、0~9) を押して、ベースノートを選ぶ。	鍵盤の音律(スケール)を設定して通常の音律(平均律)以外の音律を使う音楽(インド音楽、アラビア音楽、古典音楽など)の演奏ができます。 • 「平均律」以外を選んだときは、ベースノート(曲の調の主音)を設定する必要があります。 • 音律についての詳細は、音楽専門書などを参照してください。	<音律> 0：平均律 (Equal) 1：純正律長調 (Pure Major) 2：純正律短調 (Pure Minor) 3：ピタゴラス音律 (Pythagorean) 4：キルンベルガー第III法 (Kirnberger 3) 5：ヴェルクマイスター第1技法第3法 (Werckmeister) 6：ミーントーン (Mean-Tone) 7：ラスト (Rast) 8：バヤティ (Bayati) 9：ヒジャーズ (Hijaz) 10：サバ (Saba) 11：ダシュティ (Dashti) 12：チャハルガー (Chahargah) 13：セガー (Segah) 14：グジャリ・トーディ (Gurjari Todi) 15：チャンドラコウンス (Chandrakauns) 16：チャルケシ (Charukeshi) <ベースノート> -：C / +：C [#] / 0：D / 1：E ^b / 2：E / 3：F / 4：F [#] / 5：G / 6：A ^b / 7：A / 8：B ^b / 9：B • コンサートプレイ曲の再生中は、設定できません。
⑱ 鍵盤タッチ	オフ (OFF)、1~3 初期値：2	D	鍵盤を弾くときの強弱感度を設定します。 設定値が小さいほど、弱めのタッチで大きな音が出ます。	鍵盤を押すごとに、下記の回数だけピーという音が鳴り、現在の設定を示します。 1回 (長い音)：オフ 1回 (短い音)：1 2回：2 3回：3
⑳ 鍵盤の調 (トランスポーズ)	-12~0~12 初期値：0	B	鍵盤全体の調を、半音単位で上下させることができます。	• コンサートプレイ/ミュージックライブラリー曲の再生中と、デュエット機能のオン中は設定できません。 • 調を高く設定している場合、音色によっては最高鍵域で音の高さが不明瞭になる場合があります。
㉑ 音の高さの微調整 (チューニング)	415.5Hz~440.0Hz~ 465.9Hz 初期値：440.0Hz	B	本機全体のピッチを、A4=440Hzから0.1Hz単位で上下させることができます。	• コンサートプレイ/ミュージックライブラリー曲の再生中は設定できません。
㉒ オクターブシフト	-2~0~2 初期値：0	B	鍵盤音域をオクターブ単位で変更します。	• メイン音色パートおよびレイヤー音色パートに設定できます。 • スプリット音色パートには設定できません。

■ MIDI関連/その他の設定

項目	設定値	操作タイプ (25ページ参照)	内容	備考
① USBデバイスモードの設定	MIDI、ストレージ 初期値：MIDI	D	本機とパソコンをUSBケーブルで接続すると、MIDIになります。本機で録音した曲をパソコンに保存したり、パソコンの曲データを本機に読み込む場合は、USBデバイスモードをストレージに切り替えます。(40ページ参照)	<ul style="list-style-type: none"> • ストレージへの切り替えが完了すると、グランドピアノ (コンサート1、メロウ1、プライト1) ボタンのランプが全て点滅し、その他のランプは消灯します。 • この間は、本体操作ができなくなります。 • 設定 (MIDI ↔ ストレージ) は同じ操作をすることに切り替わります。
② ローカルコントロール	オフ、オン 初期値：オン	D	オフに設定すると、鍵盤と音源が切り離され、鍵盤を弾いても音が鳴らなくなります。	<ul style="list-style-type: none"> • コンサートプレイ/ミュージックライブラリー曲の再生中は設定できません。
③ 送信チャンネル	1~16 初期値：1	B	本機のMIDIメッセージを外部の機器へ送信するチャンネルを、1~16チャンネルの中から選びます。	
④ USB録音の音量	00 ~ 42 初期値：42	B	USBメモリーに録音したオーディオデータの音量を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> • 録音機能の使用中は、設定できません。
⑤ 操作音	オフ、オン 初期値：オン	D	オフに設定すると、 機能 ボタンを押しながら鍵盤で設定を行ったときに、操作音が鳴らなくなります。	<ul style="list-style-type: none"> • 本設定は、本機の電源を切った後も保存されます。 • コンサートプレイ/ミュージックライブラリー曲やメトロノームの再生中、および録音機能の使用中は設定できません。
⑥ 設定の保存	オフ、オン 初期値：オフ	D	オンに設定すると、その時点の各種設定内容※1が保存され、本機の電源を入れ直したときにその設定になります。オフに設定すると、電源を入れ直したとき、本機全体の設定※2がリセットされます。	<ul style="list-style-type: none"> • コンサートプレイ/ミュージックライブラリー曲やメトロノームの再生中、デュエットオン中、および録音機能の使用中は設定できません。 ※1 以下の設定は保存されません。 <ul style="list-style-type: none"> • デュエット機能のオン/オフ • 曲の左手/右手 (パート) 選択 • ローカルコントロール ※2 操作音のオン/オフ設定は除く。
⑦ 操作のロック	オフ、オン 初期値：オフ	D	オンに設定すると、ボタンがロックされて操作できなくなります (電源 ボタンとロック解除の操作を除く)。誤ってボタンに触って設定が変わったりするのを防止できます。	<ul style="list-style-type: none"> • コンサートプレイ/ミュージックライブラリー曲やメトロノームの再生中、および録音機能の使用中は設定できません。
⑧ USBメモリーデバイス	オン、オフ 初期値：オフ	—	USBメモリーモードになります。	
⑨ フォーマット			USBメモリーのフォーマットを行います。	
⑩ セーブ			USBメモリー内にデータを保存します。	
⑪ ロード			USBメモリーから本機のメモリー (レッスンパートナー用) 内へデータを読み込みます。	
⑫ デリート			USBメモリーのデータを消去します。	

USB メモリーを使用したデータの管理



本機では、市販のUSBメモリーを使用して以下のことができます。

- 鍵盤演奏をオーディオデータ (.WAV) でUSBメモリーに直接録音する
 - ☞ 22ページ「USB録音 (USBメモリーへの録音)」参照
- USBメモリーに保存したオーディオデータ (.WAV) をUSBメモリーから直接再生する
 - ☞ 32ページ「外部のオーディオデータ (WAVファイル) をUSBメモリーに保存するには」および、18ページ「USBメモリーに保存したオーディオデータを再生するには」参照
- レッスンパートナーで録音した曲データ (.MID) をUSBメモリーに保存する
 - ☞ 34ページ「レッスンパートナーで録音した曲をUSBメモリーに保存する」参照
- USBメモリーに保存した曲データ (.MID、.CM2) を本機のユーザーソング番号に読み込む
 - ☞ 35ページ「USBメモリーの曲データを本機に読み込む」参照
- USBメモリーに保存した曲データ (.MID、.CM2) をUSBメモリーから直接再生する
 - ☞ 37ページ「USBメモリーの曲を簡単に再生するには」参照
- USBメモリーをフォーマットする ☞ 32ページ
- USBメモリーのデータを消去する ☞ 36ページ

■ 使用可能なUSBメモリー

容量：32GB以下を推奨

△ 注意

- ・ 上記製品での動作確認結果は、その動作を保証するものではありません。
- ・ FAT (FAT32) フォーマットのUSBメモリーをご使用ください。
- ・ パソコン上で複数のドライブとして認識されるUSBメモリーは、使用できないことがあります。
- ・ パソコン上でCD-ROMとして認識されるUSBメモリーは使用できません。
- ・ アンチウイルス機能やセキュリティー機能などの特殊機能付きUSBメモリーは使用できません。

■ 本機で扱えるデータの種類

- .MID：本機メモリー、USBメモリー、PC (USB接続) に保存可能
- .CM2：本機メモリー、USBメモリー、PC (USB接続) に保存可能
- .CSR：本機メモリー、PC (USB接続) に保存可能
- .WAV：USBメモリーにのみ保存可能

■ 保存や読み込みができるデータの種類と内容

データの種類	内容(拡張子)	本機でできること	
		USBメモリーに保存する	USBメモリーから読み込む
ユーザーソング (40ページ)	曲データ：以下の2種類 1. カシオフォーマットデータ (CM2) カシオホームページからダウンロードした曲など 2. 一般的なMIDIファイル (MID) SMFフォーマット0, 1	-	○
[録音機能]の曲 (19ページ)	本機で録音した演奏データ (MID)	○※	-

※ 一般的なMIDIファイル (SMFフォーマット0、拡張子: .MID) に変えて保存します。

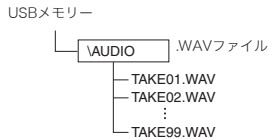
メモ

- ・ オーディオデータについては、USBメモリーに直接録音し、USBメモリーから直接再生するため、本機メモリーへの保存や読み込みの操作は必要ありません。

外部のオーディオデータ (WAVファイル) をUSBメモリーに保存するには

本機のUSB録音で録音操作をすると、USBメモリー内にAUDIOフォルダが生成され、その下に「TAKE01.WAV」から「TAKE99.WAV」までファイル名を変えながら、WAVファイルが格納されていきます。USBメモリーをパソコンにつなぎ、一般のオーディオデータ(WAVファイル)をファイル名を「TAKEXX.WAV」※に変更してこのAUDIOフォルダに保存すると、本機で再生できます。

※ XX=01～99



再生についての詳細は、18ページの「USBメモリーに保存したオーディオデータを再生するには」を参照してください。

USBメモリーとUSBメモリー端子の取扱い上のご注意

重要!

- USBメモリーに付属している取扱説明書の注意事項をお守りください。
- 以下のような場所での保管や使用は避けてください。USBメモリー上のデータが壊れる場合があります。
 - 高温多湿、または腐食性のある場所
 - 強い静電気や電氣的ノイズの発生しやすい場所
- データを保存したり読み込んでいるときには、本機を操作したりUSBメモリーを取り外したりしないでください。USBメモリーのデータが壊れたり、USBメモリー端子が故障したりする場合があります。
- USBメモリー端子には、USBメモリー以外は決して入れないでください。故障の原因となります。
- 長時間使用すると、取り外したUSBメモリーが温かくなっている場合がありますが、故障ではありません。
- USBメモリー端子に、手やUSBメモリーから静電気が伝わると、本機が誤動作する場合があります。このような場合は、一度本機の電源を切ってから、再び電源を入れてください。

著作権について

個人で楽しむなどのほかは、音声/音楽フォーマットファイルを権利者に無断で複製することは著作権法や国際条約で固く禁じられています。また、これらのファイルを有償・無償に関わらず権利者に無断でネット上で記載したり、第三者に配布することも著作権法や国際条約で固く禁止されています。万一、本機が著作権法上の違法行為に使用された場合、当社では一切その責任を負えませんが、あらかじめご了承ください。

USBメモリーを本機に装着する・取り外す

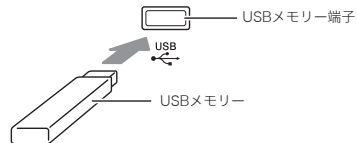
重要!

- USBメモリー端子には、USBメモリー以外は差し込まないでください。
- USBメモリーを本機に装着して最初にUSBメモリーを操作するとき、本機のシステムがUSBメモリーとデータをやり取りする準備(マウント)を行うため、一時的に本機の操作が効かなくなります。マウント中は、左手/右ランプが点滅しています。本機がマウントを完了し、操作が可能になるまで数十秒間かかることがあります。マウント中は、本機を操作しないでください。マウントは、本機にUSBメモリーを装着するたびに実行されます。

装着するとき

1. 下図のように、USBメモリーを本機のUSBメモリー端子へ差し込みます。

- 確実に奥まで差し込んでください。また、無理な挿入はしないでください。



取り外すとき

1. データをやり取り中でないことを確認してから、USBメモリーを水平にしたまま抜きます。

USBメモリーをフォーマットする

重要!

- 最初に、必ず本機でUSBメモリーをフォーマットしてください。
- フォーマットする前に、USBメモリーに大切なデータが保存されていないことをご確認ください。
- 本機でのフォーマットは、クイックフォーマットを実行します。データを完全に消去するにはパソコンなどで通常のフォーマットを行ってください。

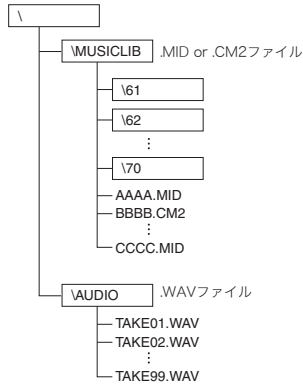
<対応USBメモリーについて>

本機は、FAT32でフォーマットされたUSBメモリーに対応しています。FAT32以外でフォーマットされたUSBメモリーは、Windowsのフォーマット機能で一度、ファイルシステムをFAT32に指定してフォーマット(除クイックフォーマット)してください。

■ USBメモリーのフォルダ構造図

本機でUSBメモリーをフォーマットすると、以下の図のようにフォルダが自動的に生成されます。

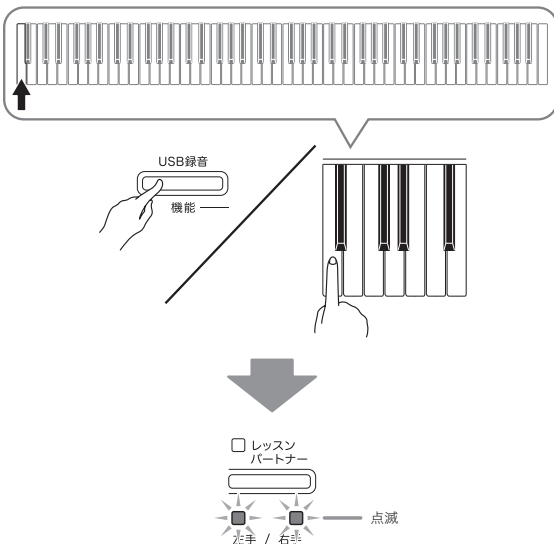
[USBメモリー]



1. フォーマットするUSBメモリーを、本機のUSBメモリー端子に装着します。

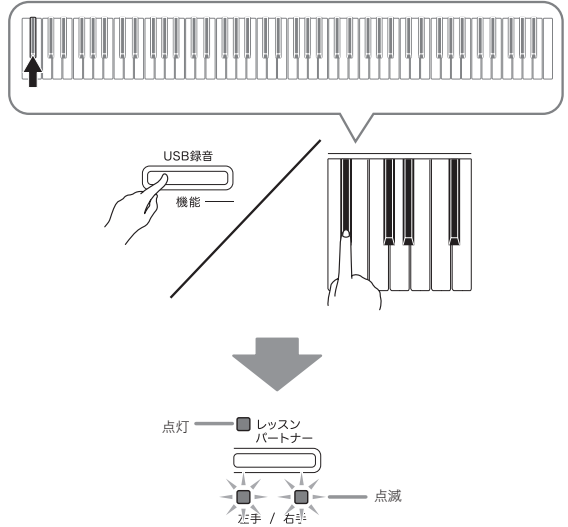
2. 機能ボタンを押したまま、USBメモリーデバイス鍵盤を押します。

- 左手/右手のランプが点滅します。



3. 機能ボタンを押したまま、フォーマット鍵盤を押します。

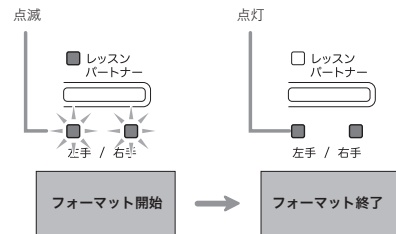
- レッスンパートナーボタンのランプが点灯します。



- フォーマットを中止したいときは、機能ボタンを押しながらUSBメモリーデバイス鍵盤を押します。

4. 再生/停止 ▶/■ ボタンを押します。

- フォーマットを開始します。
- フォーマットが終了すると、左手/右手のランプが点灯して通常の状態に戻ります。



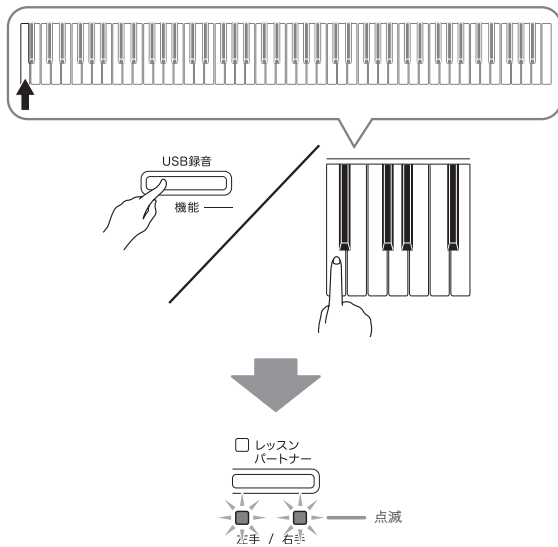
メモ

- 容量の大きなUSBメモリーをフォーマットするには、数分ほどかかる場合があります。

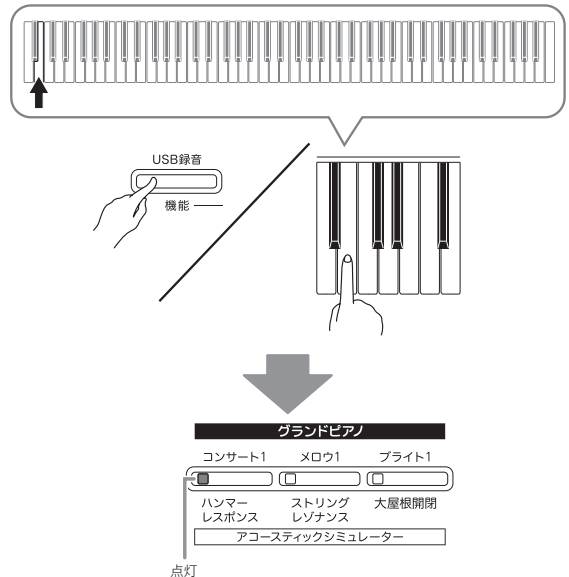
レッスンパートナーで録音した曲をUSBメモリーに保存する

レッスンパートナーで録音した曲のデータを、MIDIファイル（SMFフォーマット0）にして、USBメモリーに保存できます。

1. USBメモリーを本機のUSBメモリー端子に装着します。
2. 機能ボタンを押したまま、USBメモリーデバイス鍵盤を押します。
 - 左手/右手のランプが点滅します。

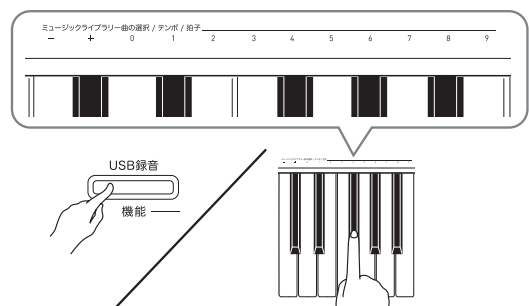


3. 機能ボタンを押したまま、セーブ鍵盤を押します。
 - グランドピアノ（コンサート1）ボタンのランプが点灯します。



- 保存を中止したいときは、機能ボタンを押しながらUSBメモリーデバイス鍵盤を押します。

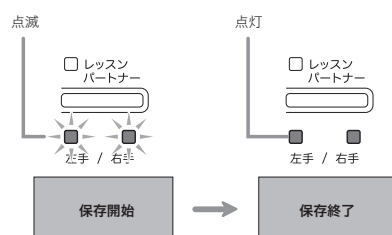
4. 機能ボタンを押したまま、ミュージックライブラリー曲の選択鍵盤で2桁のソング番号（61～70）を選びます。



- ソング番号を正しく指定できた場合は“ピッ”と、指定できなかった場合は“ピーッ”と鳴ります。

5. 再生/停止 ▶/■ボタンを押します。

- 保存を開始します。
- 保存が終了すると、左手/右手のランプが点灯して通常の状態に戻ります。



■ USBメモリー内のデータ(ファイル)の保存場所について

以上の操作により本機のデータが、USBメモリー内の“MUSICLIB”フォルダの中にファイルとして保存されます。

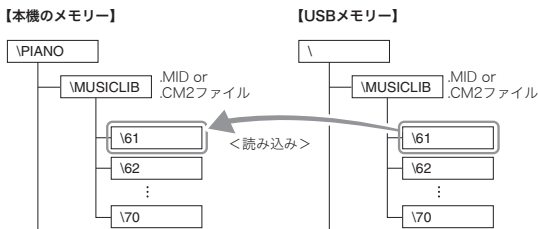
- “MUSICLIB”フォルダは、本機でUSBメモリーをフォーマットしたとき(32ページ)に自動的に作られます。
- “MUSICLIB”フォルダ以外の場所に保存されているファイルは、本機での読み込みや消去ができなくなります。
- “MUSICLIB”フォルダの下に「61」～「70」のサブフォルダがあり、手順4で選択した番号のフォルダ内にデータが保存されます。

USBメモリーの曲データを本機に読み込む

USBメモリーに保存しているユーザーソングデータ(40ページ)を本機のユーザーソング番号(ミュージックライブラリー61～70番)に読み込んで、再生したり練習したりすることができます。

メモ

- 読み込みの操作をすると、例えば、USBメモリーの「61番」の曲データが本機のメモリー「61番」に読み込まれ、ユーザーソング番号61(ミュージックライブラリー61番)で指定される曲データとなります。



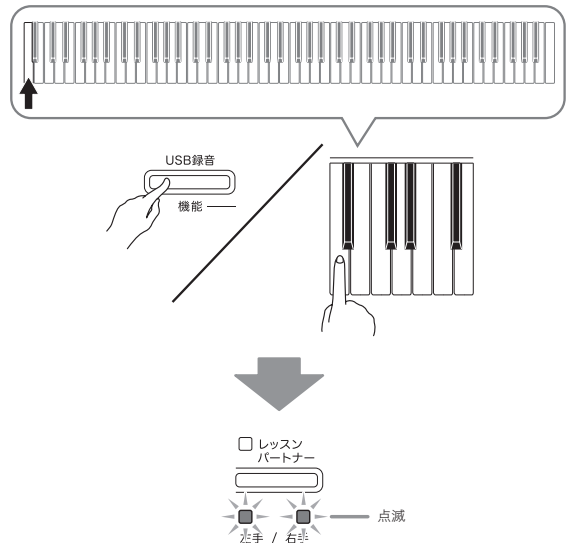
1. パソコンで、USBメモリーの“MUSICLIB”フォルダの中にあるサブフォルダ「61」～「70」に、読み込むファイルをコピーします。

- サブフォルダ「61」～「70」の番号は、本体のユーザーソング番号(61～70)に対応しています。

2. USBメモリーを本機のUSBメモリー端子に装着します。

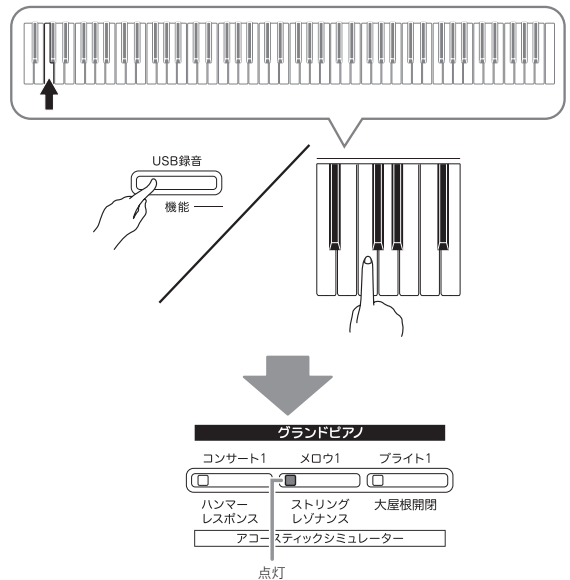
3. 機能ボタンを押したまま、USBメモリーデバイス鍵盤を押します。

- 左手/右手のランプが点滅します。



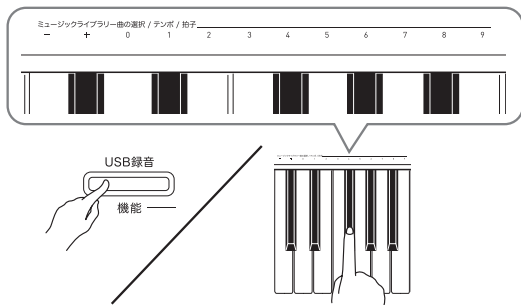
4. 機能ボタンを押したまま、ロード鍵盤を押します。

- グランドピアノ(メロウ)ボタンのランプが点灯します。



- 読み込みを中止したいときは、機能ボタンを押しながらUSBメモリーデバイス鍵盤を押します。

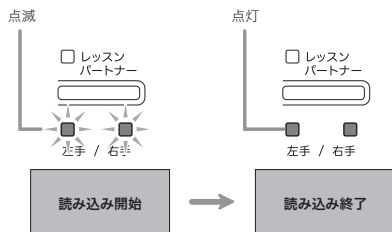
5. 機能ボタンを押したまま、ミュージックライブラリー曲の選択鍵盤で2桁のソング番号（61～70）を選びます。



- ソング番号を正しく指定できた場合は“ピッ”と、指定できなかった場合は“ピーッ”と鳴ります。
- ソング番号00を指定すると、61～70番の10個のファイルがすべて一括して本機のメモリー（レッスンパートナー用）に読み込みされます。

6. 再生/停止 ▶/■ボタンを押します。

- 本機のユーザーソングエリアへの読み込みを開始します。
- 読み込みが終了すると、左手/右手のランプが点灯して、読み込んだ曲を再生/停止 ▶/■ボタンで再生できる状態になります。



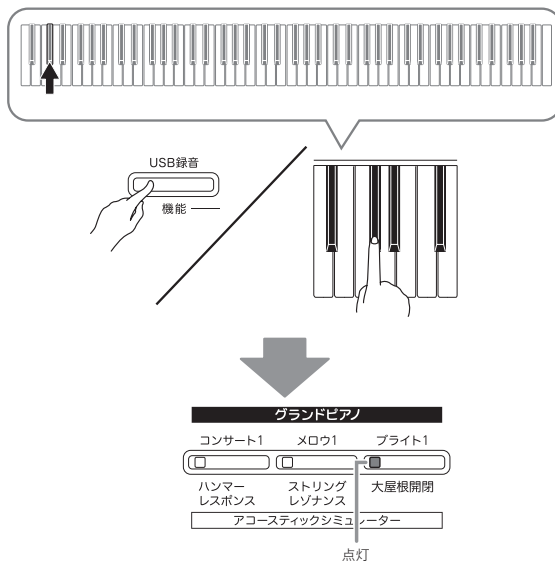
USBメモリーの曲データを消去する

USBメモリーの“MUSICLIB”フォルダの中に保存している曲データを消去します。

1. USBメモリーを本機のUSBメモリー端子に装着します。
2. 機能ボタンを押したまま、USBメモリーデバイス鍵盤を押します。
 - 左手/右手のランプが点滅します。

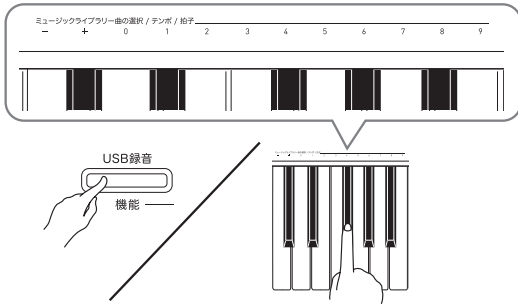


3. 機能ボタンを押したまま、デリート鍵盤を押します。
 - グランドピアノ（ブライツ1）ボタンのランプが点灯します。



- 消去を中止したいときは、機能ボタンを押しながらUSBメモリーデバイス鍵盤を押します。

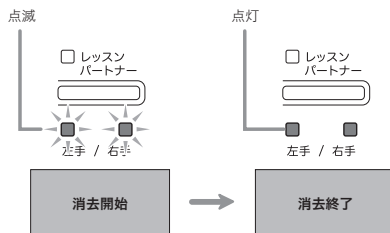
4. 機能ボタンを押したまま、ミュージックライブラリー曲の選択鍵盤で2桁のソング番号（61～70）を選びます。



- ソング番号を正しく指定できた場合は“ピッ”と、指定できなかった場合は“ピーッ”と鳴ります。

5. 再生/停止 ▶/■ボタンを押します。

- 選んだデータの消去を開始します。
- 消去を終了すると、**左手/右手**のランプが点灯して、通常の状態に戻ります。



USBメモリーの曲を簡単に再生するには

USBメモリーに保存しているユーザーソングデータ（40ページ）を、本機のミュージックライブラリー 61～70番に読み込まなくても、簡単に再生することができます。

1. パソコンで、USBメモリーの“MUSICLIB”フォルダの中に再生したい曲のデータをコピーします。
 - “MUSICLIB”内の曲データのうち、ファイル名順に並べたときの最初の99曲の中から選んで再生することができます。
2. USBメモリーを本機のUSBメモリー端子に装着します。
3. 機能ボタンを押したまま、USBメモリーデバイス鍵盤を押します。
 - 左手/右手のランプが点滅します。
4. 再生/停止 ▶/■ボタンを押します。
 - 曲データの再生が始まります。
 - もう一度再生/停止 ▶/■ボタンを押すと曲が停止します。
5. 機能ボタンを押したまま、ミュージックライブラリー曲の選択鍵盤の—または+を押して、聴きたい曲を選びます。
 - —や+を押すごとに、曲がファイル名順に切り替わります。
 - 数値入力鍵盤（0～9）を押して、曲の番号を直接入力することもできます。
6. USBメモリーの曲を再生する機能を終了するには、機能ボタンを押したまま、USBメモリーデバイス鍵盤を押します。

エラー表示一覧

データ転送の失敗などエラーが発生したときには、エラーの種類により本機のランプが下記のように点灯します。

ランプの表示	エラーの種類	原因	解決方法
	No Media	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本機のUSBメモリー端子にUSBメモリーが正しくセットされていない。 2. 操作の途中でUSBメモリーが抜き差しされた。 3. USBメモリーがプロテクトされている。 4. USBメモリーにウイルス対策ソフトが入っている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. USBメモリー端子にUSBメモリーを正しくセットする。 2. 本機の操作中にはUSBメモリーを動かさない。 3. USBメモリーのプロテクトを解除する。 4. ウィルス対策ソフトが入っていないUSBメモリーを使う。
	No File	"MUSICLIB"、"AUDIO"フォルダの中に読み込みや再生ができるファイルが無い。	読み込みや再生したいファイルを"MUSICLIB"、"AUDIO"フォルダの正しい場所(32、34ページ)へ移動する。
	No Data	録音データが無いのに、USBメモリーに保存しようとした。	録音してから保存する。
	Read Only	USBメモリーに入っている読み込み専用ファイルと同じ名前前で、別のデータを保存しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> • 別の名前に変えてから保存する。 • USBメモリーのファイルから読み込み専用属性をはずして、上書き保存する。 • 別のUSBメモリーを使う。
	Media Full	USBメモリーの空き領域が足りない。	USBメモリーに保存しているファイルを消去して、空き領域を増やす。または別のUSBメモリーを使う。
	File Full	<ol style="list-style-type: none"> 1. USBメモリー内のファイル数が上限になっている。 2. "AUDIO"フォルダ内にTAKE99.WAVファイルが存在する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. USBメモリーに保存しているファイルを消去してファイル数を減らす。 2. "AUDIO"フォルダ内のWAVファイルを消去する。
	Not SMF01	SMFフォーマット2の曲データを再生しようとした。	本機で再生できるSMFのフォーマットは、"0"または"1"です。
	Size Over	USBメモリーの曲データのサイズが大きすぎて本機で再生できない。	本機では最大で65キロバイトの曲データまで再生できません。
	Wrong Data	<ol style="list-style-type: none"> 1. USBメモリーのデータが壊れている。 2. USBメモリーのデータが本機で操作できない内容になっている。 	—
	Convert	レッスンパートナーの曲をSMFに変換してUSBメモリーに保存するために必要な、本機のメモリー空き領域が不足している。	曲のデータサイズを小さくする。 例：削除してよいトラックがあれば、そのトラックのデータを消去する。
	Format	<ol style="list-style-type: none"> 1. USBメモリーのフォーマットが本機に適合していない。 2. USBメモリーが壊れている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本機でUSBメモリーをフォーマットする。 2. 別のUSBメモリーを使う。
	Media R/W	USBメモリーが壊れている。	別のUSBメモリーを使う。

パソコンとの接続について

パソコンと接続する

この楽器とパソコンを接続して演奏情報（MIDIデータ）の送受信ができます。楽器演奏をパソコンの音楽ソフト（市販品）へ送って記録したり、パソコンからこの楽器へデータを送って音を鳴らすことができます。

パソコンの動作環境

MIDIデータを送受信するために必要なパソコン環境は下記のとおりです。お手持ちのパソコン環境を必ず事前にご確認ください。

● 対応OS

Windows Vista® ※1

Windows® 7 ※2

Windows® 8 ※3

Windows® 8.1 ※4

Mac OS® X (10.3.9、10.4.11、10.5.X、10.6.X、10.7.X、10.8.X、10.9.X)

※1 Windows Vista (32bit版)

※2 Windows 7 (32bit版、64bit版)

※3 Windows 8 (32bit版、64bit版)

※4 Windows 8.1 (32bit版、64bit版)

● USB端子

重要!

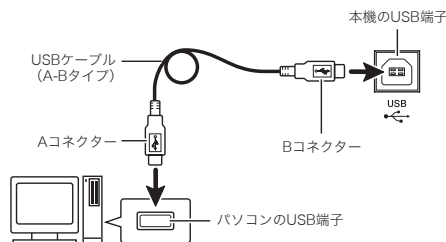
- 上記の対応OS以外のパソコンを接続すると、パソコンが故障する場合があります。絶対に接続しないでください。

接続方法

重要!

- 正しい手順で接続しないとデータの送受信ができなくなる場合があります。必ず下記の手順に従って接続してください。

1. 本機の電源を切り、パソコンを起動させておきます。
 - パソコンの音楽ソフトは起動させないでください。
2. 市販のUSBケーブルで、パソコンと本機を接続します。



3. 本機の電源を入れます。
 - 初めての接続では、データを送受信するために必要なドライバが自動でパソコンにインストールされます。
4. パソコンの音楽ソフト（市販品）を起動させます。
5. パソコンの音楽ソフト（市販品）の設定で、MIDIデバイスとし「CASIO USB-MIDI」を選びます。
 - MIDIデバイスの選択方法については、お使いの音楽ソフトのマニュアルをご覧ください。

重要!

- パソコンの音楽ソフトを起動させる前に、必ず本機の電源を入れておいてください。

メモ

- 1回接続に成功した後は、USBケーブルをつないだままでパソコンや本機の電源を入れなおすことができます。
- 本機のMIDIデータ送受信の詳しい仕様や、接続についての最新のサポート情報は、下記のホームページをご覧ください。
<http://casio.jp/support/emi/>

MIDI機能を使ってみる

MIDIについて

電子楽器同士、あるいは電子楽器とコンピューター機器との間で情報をやり取りできるように、デジタル信号の仕様や端子の形状について定めた統一規格のことでです。

メモ

- MIDIインプリメンテーションの詳細は、
<http://casio.jp/support/emi/> を参照してください。

27～30ページの「設定項目一覧表」の中の「送信チャンネル」「ローカルコントロール」をご参照ください。

本機で録音した曲をパソコンに保存する／パソコンの曲データを本機に読み込む

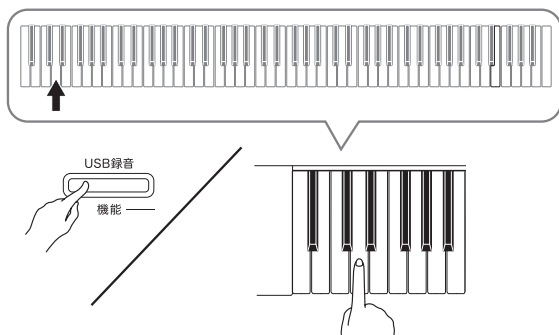
本機で録音した曲（以下、[録音機能]の曲、と呼びます）をパソコンに保存したり、カシオのホームページからパソコンにダウンロードした曲を本機のユーザーソング（ミュージックライブラリー 61～70番）に読み込んで再生したりすることができます。

重要!

- データの保存や読み込みを行っているときに本機の電源が切れると、本機に記録しているデータ（録音した曲など）が、すべて消えてしまう場合があります。誤って電源を切らないようご注意ください。データが消えてしまった場合には、次に本機の電源を入れたとき（6ページ）、演奏できるようになるまでに通常よりも長く時間がかかります。

1. 本機とパソコンを接続します（39ページ「パソコンと接続する」手順1～3）。

2. 本機のUSBデバイスモードをストレージに切り替えます。



- 機能ボタンを押しながら、USBデバイスモード鍵盤を押します。
- 切り替えが完了すると、**グランドピアノ（コンサート1、メロウ1、ブライツ1）** ボタンのランプがすべて点滅し、その他のランプは消灯します。
- 詳しくは、27～30ページの「設定項目一覧表」の中の「USBデバイスモードの設定」（30ページ）を参照してください。

3. パソコンの「コンピュータ※」をダブルクリックします。

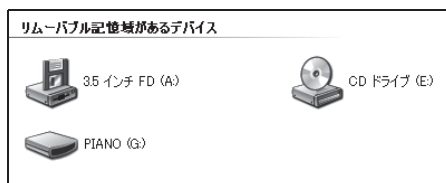
※Windows Vista、Windows 7の場合。

Windows 8の場合は、任意のフォルダを開き、ナビゲーションウィンドウから「コンピュータ」をクリックしてください。

Windows 8.1の場合は、任意のフォルダを開き、ナビゲーションウィンドウから「PC」をクリックしてください。

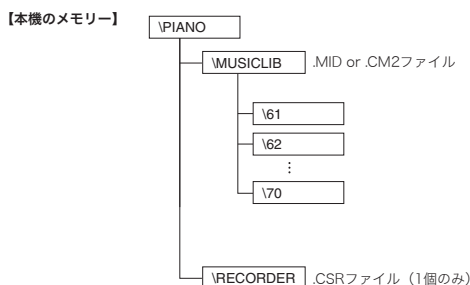
Macの場合は、デスクトップに「PIANO」が表示されるので、手順3をとばして手順4へ進んでください。

- 「リムーバブル記憶域があるデバイス」の中に、パソコンにつながった本機のメモリーが「PIANO」という名前で表示されています。



4. 「PIANO」をダブルクリックして開きます。

- 「PIANO」内には、フォルダ「MUSICLIB」と「RECORDER」が入っています。



- ユーザーソング（ミュージックライブラリー 61～70番）に曲を読み込むには、「MUSICLIB」内に作られているサブフォルダ「61」～「70」に曲のデータを保存します。例えば、サブフォルダ「61」に曲データを保存すると、本機はそれをミュージックライブラリー 61番の曲データとして扱います。

- ・ [録音機能] の曲データ (CSR) をパソコンに保存するには、「RECORDER」フォルダの中のCSRファイルをパソコンにコピーします。また、パソコンに保存したCSRファイルは、「RECORDER」フォルダにコピーすることで、本機に戻すことができます。

データの種類	フォルダ名	ファイル名と拡張子※
ユーザーソング	MUSICLIB	.MID : SMF形式データ (フォーマット0/1) .CM2 : カシオオリジナル形式データ
[録音機能] の曲	RECORDER	BIDREC01.CSR : カシオオリジナル形式データ

※ 保存、読み込みの操作をする前にファイル名と拡張子が上記の内容になっていることを必ずご確認ください。
[録音機能] の曲の場合、ファイルは上記の名前および拡張子に変更してください。

重要!

- ・ Windows Vista、Windows 7、Windows 8、Windows 8.1では、拡張子が表示されないように初期設定されています。その場合は以下の手順で、拡張子を表示させます。

Windows Vista、Windows 7の場合

1. [スタート] ボタンの画像をクリックし、[コントロールパネル]、[デスクトップのカスタマイズ]、[フォルダオプション] の順にクリックします。
2. [表示] タブをクリックし、[詳細設定] の [登録されている拡張子は表示しない] チェックボックスをクリックしてチェックを外します。
3. [OK] をクリックします。

Windows 8、Windows 8.1の場合

1. 任意のフォルダを開きます。
2. [表示] をクリックし、[表示/非表示] の項目にある [ファイル名拡張子] のチェックボックスをクリックしてチェックを入れます。

■ ユーザーソング (ミュージックライブラリー 61～70番) に曲を読み込むには

読み込みたい曲のファイル (.MIDまたは.CM2) を、MUSICLIB内のサブフォルダ (「61」～「70」) にコピーします。

- ・ サブフォルダ内に、拡張子.MIDと.CM2の両ファイルがある場合、.MIDのデータが本体に読み込まれます。

■ [録音機能] の曲をパソコンに保存するには

RECORDERフォルダ内の [録音機能] の曲ファイルをパソコンの保存先フォルダにコピーします。また、以前にパソコンに保存した [録音機能] の曲ファイルをRECORDERフォルダにコピー (上書き) することで、[録音機能] の曲を保存時の状態に戻すことができます。

5. ファイルの移動が終わったら、本機のUSBデバイスモードをMIDIに戻します。

- ・ Macの場合は、パソコンで「PIANO」フォルダの取り出し操作 (ゴミ箱にドラッグアンドドロップするなど) を行ってください。
- ・ 機能ボタンを押しながら、USBデバイスモード鍵盤を押します。
- ・ MIDIモードに戻すと、MUSICLIBおよびRECORDERフォルダのファイルがユーザーソングおよび [録音機能] の曲に読み込まれます。

重要!

- ・ データ交換にエラーが生じた場合:
再生/停止 ▶■ボタンのランプ(2つ)、グランドピアノ (コンサート1、メロウ1、ブライト1)ボタンのランプがすべて点灯します。その他のランプはすべて消灯します。

■ カシオホームページのソングデータのご利用について

CASIO Music Site (<http://music.casio.co.jp/>) の以下のサービスから、ソングデータをダウンロードして本機に転送することができます。

- インターネット・ソングバンク
- インターネット楽譜ナビ

メモ

- ・ 本機では、ピアノ曲のみ使用できます。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作人及び著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的に又は家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製 (データ形式の変換を含む)、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作人人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをなされる場合には、著作権法を遵守の上、適切にご利用を心がけていただきますよう、お願いいたします。

演奏の準備

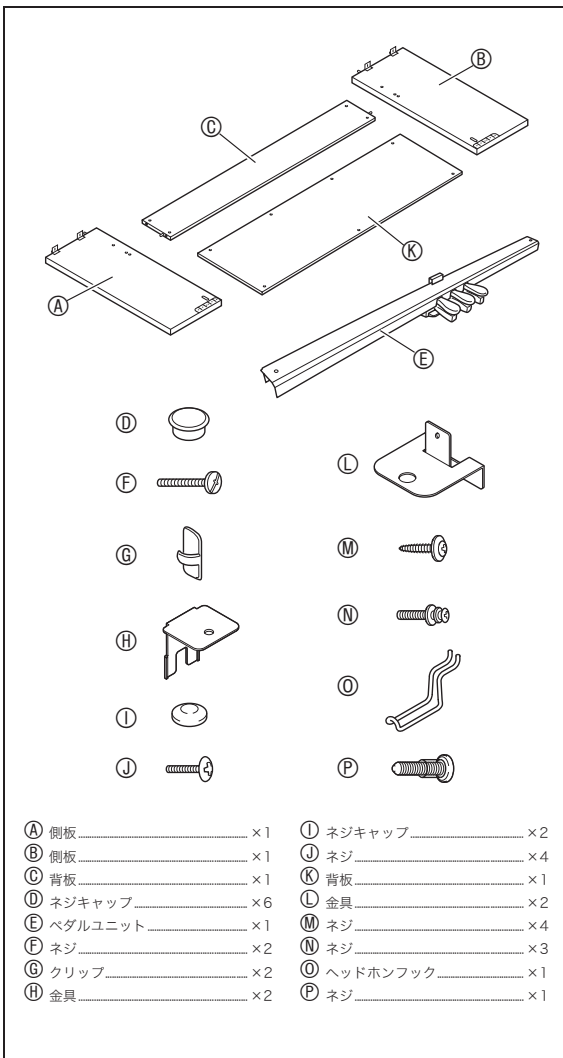
スタンドを組み立てる

準備

- 最初に以下の部品がそろっていることをご確認ください。
- 組み立て用の工具は付属しておりません。あらかじめ大きめのプラス (+) ドライバーをご用意ください。

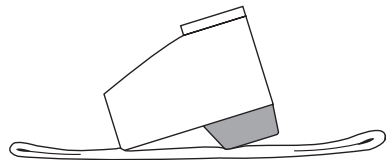
重要!

- 付属部品以外のネジを使用しないでください。スタンドや楽器本体が破損する恐れがあります。
- ネジ類はビニール袋にまとめて、緩衝材内にあります。詳しくは、本体の包装に貼付けの「再梱包イラスト図」をご覧ください。
- ネジの紛失・破損時は、カシオテクノ修理相談窓口にお問い合わせください。



注意

- 組み立ては、必ず二人で行ってください。
- 組み立ては、必ず平らな場所で行ってください。
- 組み立てが終わるまで、本体の鍵盤カバーについているテープをはがさないようにしてください。組み立ての途中でカバーが開閉すると指などはさむことがあり、危険です。
- 組み立ての際は、手などはさまないようにご注意ください。
- 脚ゴムが床に直接触れないように、フェルトなどの布を敷いてください。脚ゴムが直接フローリングなどの床材に触れると、床材によっては床の変色や傷付き等の原因となることがあります。
- ピアノ本体を床に置くときは、本体底面が床に直接接触しないように、柔らかいもの（毛布、座布団など）の上に置いてください。

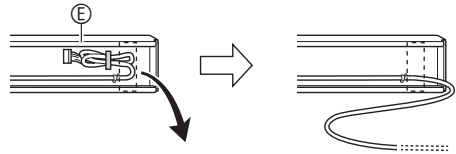


メモ

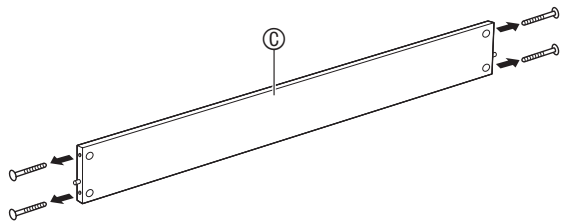
- スタンド組み立て時は、必ず以降の順番を守ってください。

準備

- ペダルユニットEの中から、ペダルコードを引き出します。



1. 背板Cの側面に付いている4つのネジを外します。



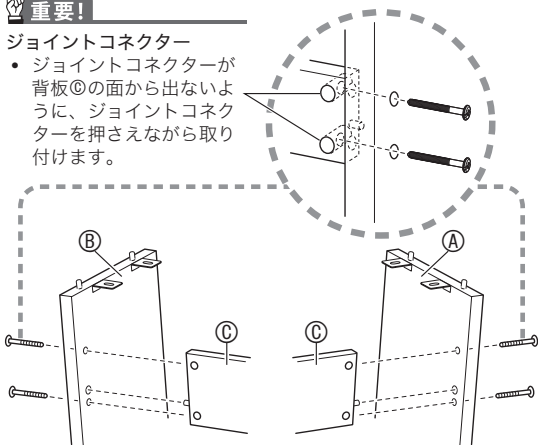
2. 側板④⑧を、背板③に取り付けます。手順1で外したネジを使用します。

- ジョイントコネクタを背板③に差し込んである面がスタンドの裏側に来るように取り付けます。
- ネジがジョイントコネクタのネジ穴に入りにくい場合は、ドライバーを使用してジョイントコネクタを回転させ、調節してください。

重要!

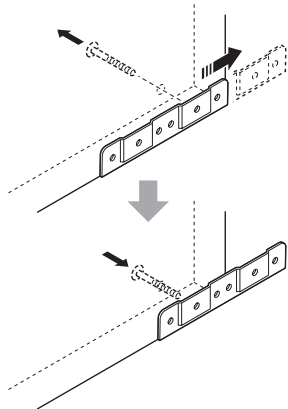
ジョイントコネクタ

- ジョイントコネクタが背板③の面から出ないように、ジョイントコネクタを押さえながら取り付けます。



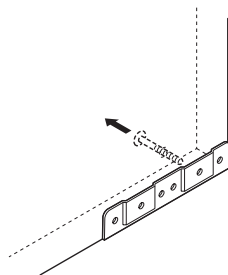
3-1. 壁から離れた場所に設置する場合は、スタンドを倒れにくくするために、側板④⑧の下部に付いている金具のネジ（左右2箇所）を外側から取り外して、金具を図のようにスライドさせます。そのあと、取り外したネジを使って金具を仮留めします。

【側板の内側】

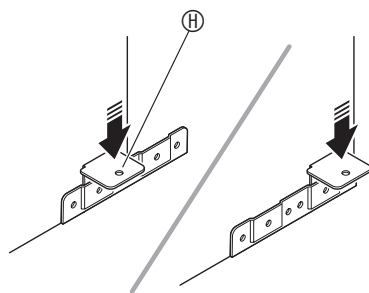


3-2. 壁に近づけて設置する場合は、側板④⑧の下部についている金具のネジを緩めます（左右2箇所）。

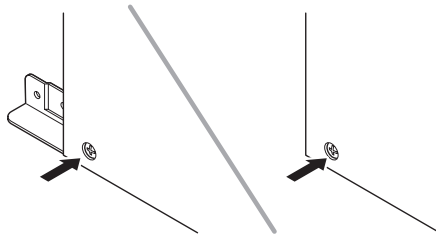
- このとき、ネジを完全に取り外さないようにしてください。



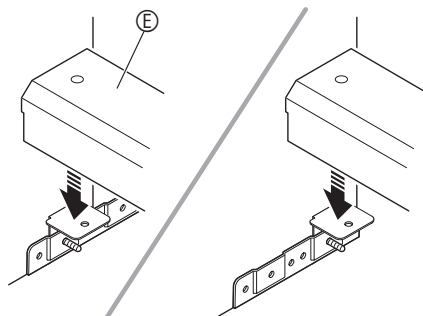
4. 金具と側板④⑧の隙間に、金具⑨を差し込みます。



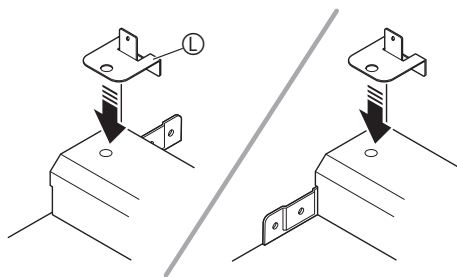
5. 側板④⑧の外側から、手順3でゆるめたネジを使って仮留めします。



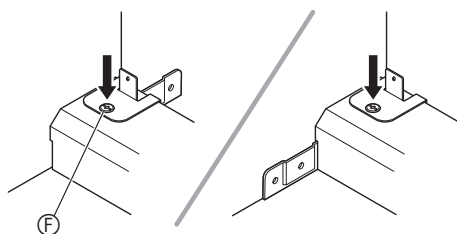
6. 手順5で取り付けけた金具⑨の上にペダルユニット⑤を乗せます。



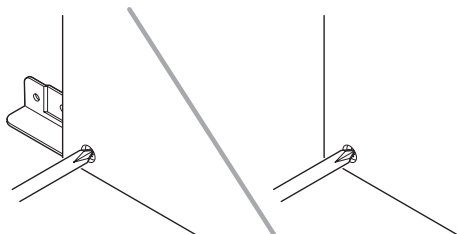
7. 金具①をペダルユニット⑥の両端に乗せます。



8. ネジ⑤で金具①とペダルユニット⑥をしっかりと固定します (2箇所)。

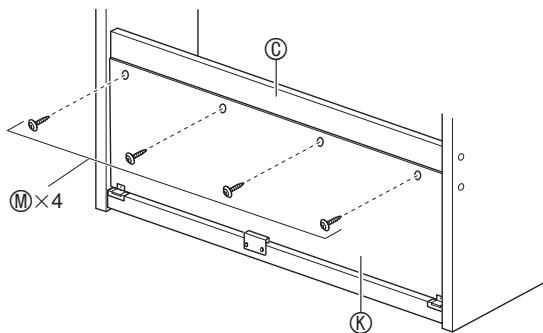


9. ペダルユニット⑥の位置(高さ)を調整してから、手順5で仮留めしたネジをしっかり締めます。

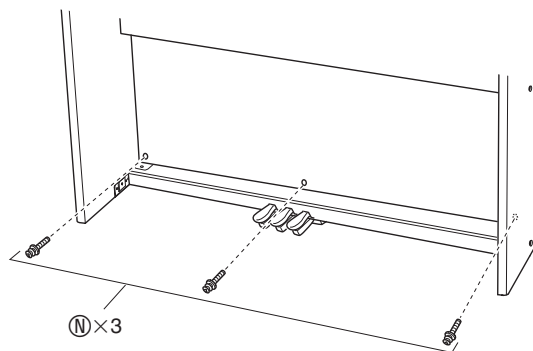


10. 背板⑧を、背板⑦に固定します。

- 背板⑧の4箇所を、ネジ④で締めます。

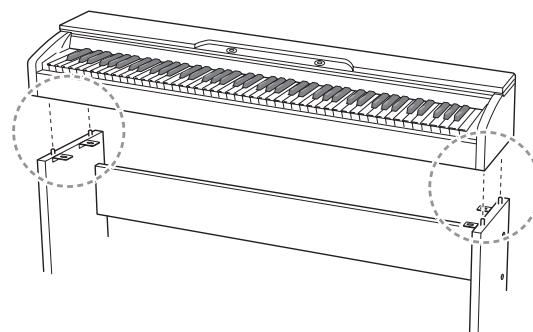


11. 楽器の前方に回って、下図の3箇所にネジ⑨をしっかり締めます。



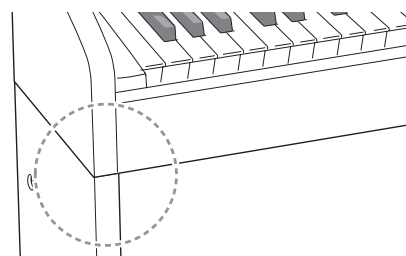
12. 側板④⑤の上部にあるダボ(突起)とピアノ本体の底部にあるダボ用の穴の位置を合わせて、ピアノ本体をスタンドに乗せます。

- ピアノ本体はまだスタンドに固定されていないので、ピアノ本体が落ちないようにご注意ください。

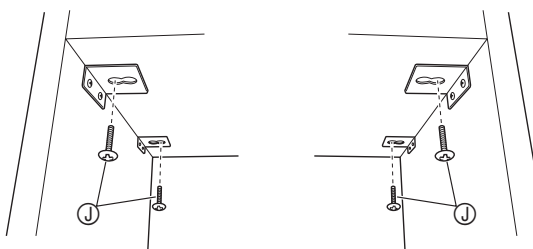


重要!

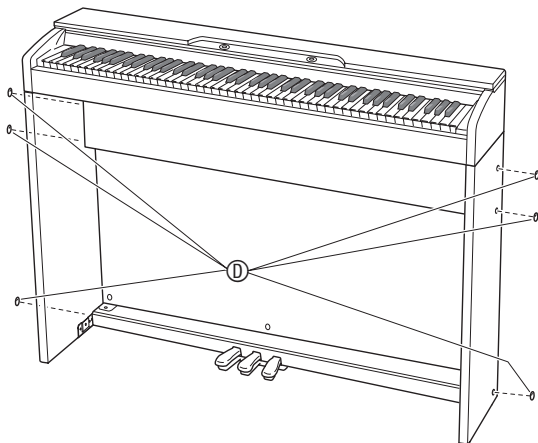
- ピアノ本体をスタンドに乗せたあと、ピアノ本体の側板とスタンドの位置を、図のように合わせてください。



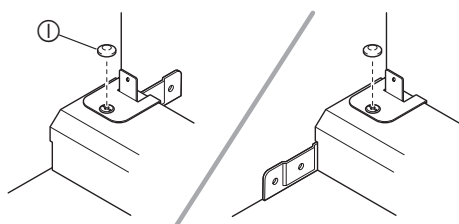
13. ネジ⑩を使って、側板④⑤の上部についている金具をピアノ本体の底部にしっかりと固定します。



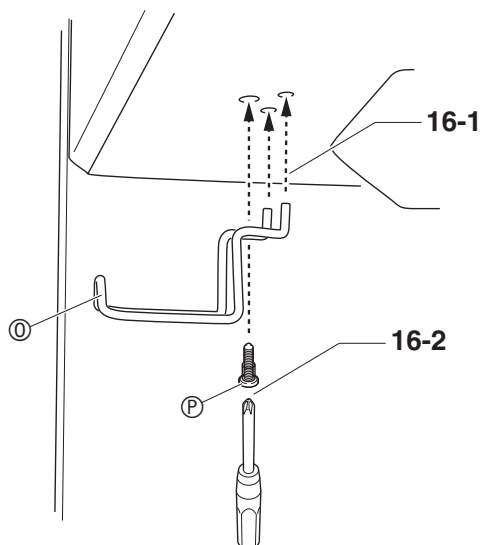
14. 側板④⑤に取り付けたネジ（6箇所）がしっかりと締まっていることを確認してから、ネジキャップ⑥をネジの頭にはめ込みます。



15. 手順8で固定したネジ（2箇所）の頭に、ネジキャップ①をはめ込みます。

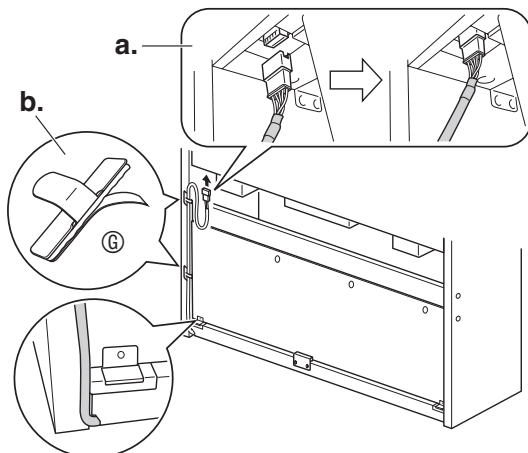


16. ヘッドホンフック⑩を取り付けます。
 (16-1) ピアノ本体底面の2つの穴に、ヘッドホンフック⑩を差し込みます。
 (16-2) ネジ⑩でヘッドホンフックを本体にしっかりと固定します。

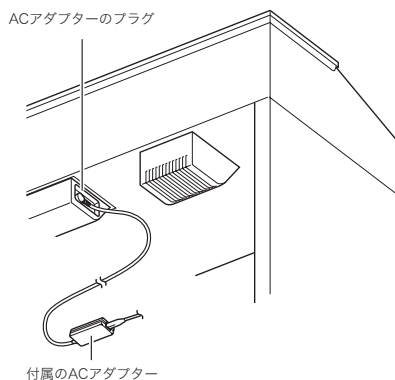


コード類を接続する

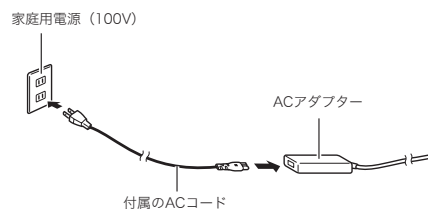
1. ペダルユニットのプラグを、下図と同じ向きにして、ピアノ本体底面にあるペダルコネクタに差し込みます。
 a. 根元までしっかりと差し込んでください。
 b. ペダルコードを側板⑧の2箇所、クリップ⑥で固定します。



2. 本機の電源端子（DC 24V）に付属のACアダプターのプラグを挿します。

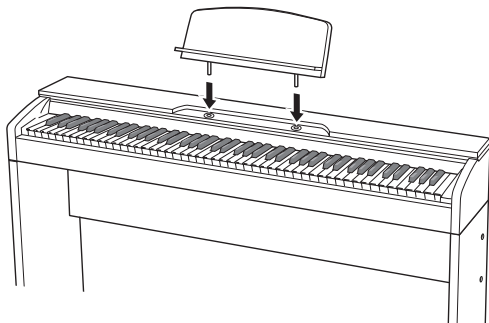


3. 付属のACコードで、ご家庭の100V電源とACアダプター本体を、下図のように接続します。



譜面立ての立て方

1. 本体の上面にある2つの穴に、譜面立ての脚を差し込みます。



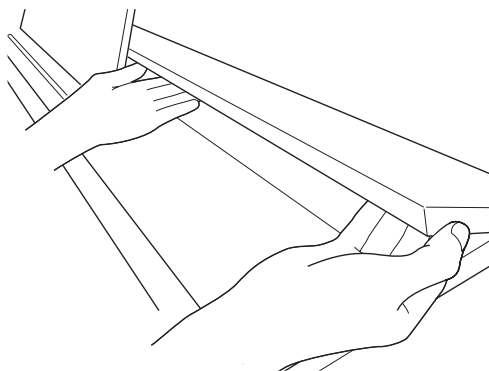
ピアノ天板の開け方／閉め方

重要!

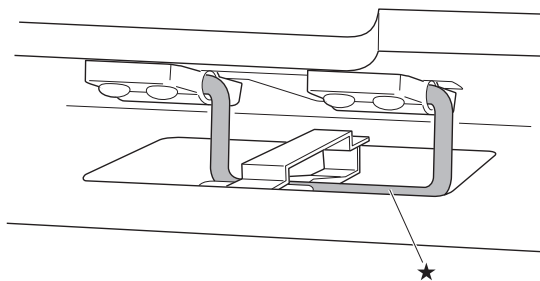
- 天板の開け閉めは、必ず両手で行い、指をはさまないようにご注意ください。
- 天板を無理に後ろ方向へ開けないでください。破損の原因になります。
- ピアノの右側に立って開閉を行ってください。

開けるとき

1. 図のように、天板を持ち上げます。

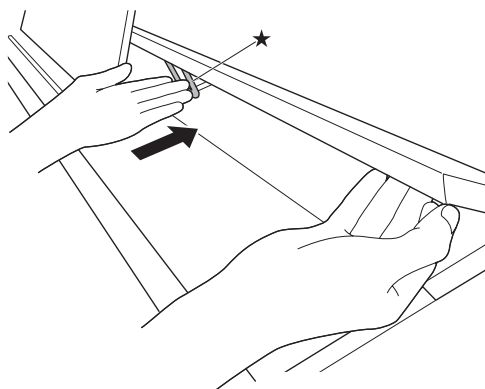


- 天板の内側に天板を支える金具（図の★部分）があるので、金具が立ち上がっていることを確認してください。



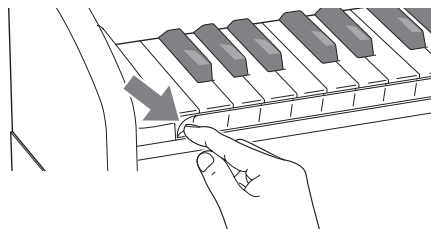
閉めるとき

1. 天板を軽く上に持ち上げます。
2. 図のように天板を支える金具（★）を指で後ろに押しながら、ゆっくりと天板をおろします。



鍵盤に付いている保護テープをはがす

運搬の際に鍵盤を保護するため、鍵盤の手前部分に保護テープが付いています。本機をご使用になるときは、保護テープをはがしてください。



電源について

本機は、電源として家庭用電源を使用します。
ご使用後は、必ず電源を切ってください。

ACアダプターの使い方

本機付属のACアダプター（JEITA規格・極性統一形プラグ付き）を使用してください。付属以外のACアダプターを使用すると故障の原因になることがあります。

本機指定 AC アダプターの型式：AD-E24250LW

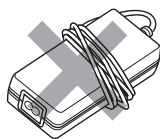
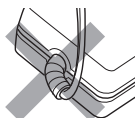
- ACアダプターの接続には、付属の電源コードをご使用ください。

重要!

- 本機付属のACアダプターは、本機にのみご使用ください。他の機器への接続は絶対に行わないでください。故障の原因となります。
- ACアダプター本体を抜き差しするときは、必ず電源を切ってから行ってください。
- ACアダプターは長時間ご使用になりますと、若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- 付属の電源コードは、本製品以外の電気機器には使用しないでください。


■ 付属（本機指定）のACアダプターについて

- 断線防止のため、下記にご注意ください。
 - コードを強く引っ張らない
 - コードを繰り返し引っ張らない
 - コードの根元部分を折り曲げない（右図）
- 楽器本体を移動させるときは必ずACアダプターを家庭用コンセントから外す
- コードを右図のようにACアダプター本体に巻き付けない



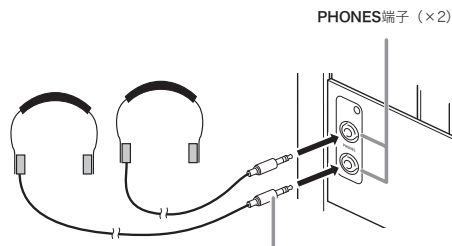
- 本ACアダプターは、使用する機器の近くにあるコンセントに差し込んで使用してください。不具合が生じたときには、コンセントから直ちに取り外せるようにしてください。
- 本アダプターは、ラベル貼付け面が下向きになるように置いてご使用ください。逆向きに置くと電磁波が発生しやすくなる場合があります。
- 本ACアダプターは、屋内専用です。水滴のかかる場所には置かないでください。また、水の入った花瓶などを本ACアダプターの上にのせないでください。
- 本ACアダプターは、湿気のないところで保管してください。
- 本ACアダプターは、広々とした換気のよいところでお使いください。
- 本ACアダプターを、新聞紙やテーブルクロス、カーテンなどで覆わないようにしてください。
- 使用する機器を長い間使用しないときには、本ACアダプターをコンセントから外してください。

- 本ACアダプターは、修理することができません。
- 本ACアダプターの使用環境：温度0～40℃
湿度10%～90%RH

出力形式：

ヘッドホンを接続するには

【前面部】



ステレオ標準プラグ

別売（CP-16）あるいは市販のヘッドホンをPHONES端子に接続します。本機のスピーカーからは音が出なくなり、夜間なども周囲に気がねなく演奏が楽しめます。なお、耳の保護のために音量を上げすぎないようにご注意ください。

メモ

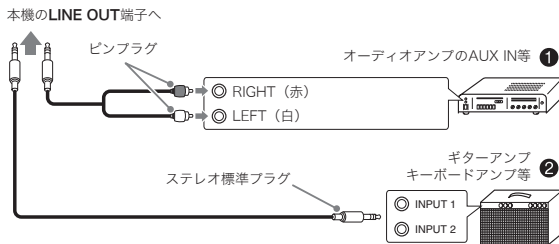
- ヘッドホンのプラグはPHONES端子に根元までしっかり差し込んでください。プラグが根元まで挿入されていないと、ヘッドホンの片側からしか音が出ない場合があります。
- ヘッドホンのプラグの形状が端子にあわない場合は、市販の変換プラグをご使用ください。
- ヘッドホンのコードを本機から抜くときは、変換プラグだけを本機に残さないようにご注意ください。プラグが残っていると演奏しても音が出ません。

オーディオやアンプと接続するには

オーディオや楽器用アンプと接続すれば、それらの機器のスピーカーの能力に応じた、より迫力のある音量や音質で、演奏を楽しめます。

重要!

- 本機では、ヘッドホンを使用しているときはヘッドホンで聴くのに適した音質に、内蔵スピーカーを使用しているときは内蔵スピーカーで聴くのに適した音質に自動的に切り替わります。これに従って本機のLINE OUT R, L/MONO端子から出力される音質も自動的に変わります。
- 接続の際は、本機の音量つまみを（接続する機器側にも音量調節があればそちらも）絞っておき、接続後、適切な音量に調節してください。
- 接続に際しては、接続機器の取扱説明書も併せてお読みください。



オーディオと接続するには (図①)

LINE OUT R (Right) が右チャンネル、LINE OUT L/MONO (Left) が左チャンネルの音です。市販の接続コードで図①のように、両方とも接続してください。通常はオーディオのインプットセクターを、接続した端子 (AUX IN等) に切り替えます。音量は本機の音量つまみでも調節できます。

楽器用アンプと接続するには (図②)

LINE OUT R (Right) が右チャンネル、LINE OUT L/MONO (Left) が左チャンネルの音です。LINE OUT L/MONOだけに接続すれば、両方のチャンネルの混ざった音になります。市販の接続コードで図②のように接続してください。音量は本機の音量つまみでも調節できます。

重要!

LINE OUT端子を使うとき

- LINE OUT端子を使う場合は、PHONES端子にヘッドホン接続してください。ラインアウトに適した音質に切り替わります。

付属品・別売品について

付属品や別売品は、必ず本機指定のものをご使用ください。指定以外のものを使用すると、火災・感電・けがの原因となることがあります。

- 付属品の一覧と、別売品のご案内については50、51ページをご参照ください。
- 別売品については、店頭の製品カタログでより詳しい情報をご覧になれます。
<http://casio.jp/emi/catalogue/>

困ったときは

現象	原因	解決方法	参照
鍵盤を押しても音が出ない。	<ol style="list-style-type: none"> 音量つまみが“小”の位置にある。 ヘッドホンがつながっている。またはヘッドホンの変換プラグがPHONES端子に残っている。 ローカルコントロールの設定がオフになっている。 	<ol style="list-style-type: none"> 音量つまみを“大”の方に動かす。 ヘッドホンまたは変換プラグをPHONES端子から抜く。 ローカルコントロールの設定をオンにする。 	<p>☞ 7ページ</p> <p>☞ 47ページ</p> <p>☞ 30ページ</p>
ピッチがずれて聴こえる。	<ol style="list-style-type: none"> 鍵盤の調(トランスポーズ)の設定が“0”以外になっている。 音の高さの微調整(チューニング)の設定が440.0Hz以外になっている。 オクターブシフトが設定されている。 音律が設定されている。 	<ol style="list-style-type: none"> 設定を“0”にする。または、電源を入れ直す。 設定を440.0Hzにする。または、電源を入れ直す。 オクターブシフトの設定を“0”にする。 音律の設定を“0”(平均律)にする。 	<p>☞ 29ページ</p> <p>☞ 29ページ</p> <p>☞ 29ページ</p> <p>☞ 29ページ</p>
ペダルを踏んでも効果がかからない。	<ol style="list-style-type: none"> ペダルのコードが接続されていない。 ペダルユニットのプラグの差し込み方が、不完全になっている。 	<ol style="list-style-type: none"> 正しく接続する。 ペダルユニットのプラグを本機底面のペダルコネクターにしっかり差し込む。 	☞ 45ページ
音の鳴り方や効果がおかしい。電源を入れ直しても変わらない。 例: 弾き方(タッチ)を変えても音に強弱がつかない。	「設定の保存」がオンになっている。	「設定の保存」をオフにして、電源を入れ直す。	☞ 30ページ
パソコンと接続したとき、データの送受信ができない。	—	<ol style="list-style-type: none"> 本機とパソコンがUSBケーブルで正しく接続されているか、あるいはパソコンの音楽ソフトの設定でデバイスが正しく選ばれているか確認する。 本機の電源を切ってパソコンの音楽ソフトを終了させてから、本機の電源を入れてパソコンの音楽ソフトを再起動させてみる。 	☞ 39ページ
USBメモリーにデータを保存できない。またはUSBメモリーからデータを読み込みできない。	—	「エラー表示一覧」をご参照ください。	☞ 38ページ
電源を入れてから使用できるようになるまで、かなり時間がかかる。	前回の電源オフ時、本機とパソコンの間でデータを送受信中であったため、本機内蔵メモリーのデータが破壊された。内蔵メモリーのフォーマットが実行されるため。	電源を入れてから内蔵メモリーのフォーマット完了まで、約20秒前後の時間がかかります。使用できるようになるまでお待ちください。また、本機とパソコンの間でデータを送受信中に電源を切らないようにしてください。	☞ 40ページ
同じ音色で鍵盤の位置によって音質や音量が若干異なる音色がある。	デジタルサンプリングという電子処理*によって発生する音域の境目で、故障ではありません。 ※ 元になっている楽器音の音域ごとの音質を再現するために、低域・中域・高域など複数の音域ごとに元の楽器音を録音し、ひとつの音色に仕上げる処理。		
ボタン操作をすると、鳴っている音が一時的に途切れたり、音質が若干変わったように聴こえる。	レイヤー機能、デュエット機能、内蔵曲の演奏、録音機能などを使用しているときは、複数のパートの音が同時に鳴っています。このようなときにボタンを操作すると、音色固有の内部エフェクト設定が自動的に変更されて、パートによっては左記のような現象が発生することがありますが、故障ではありません。		
本機の外観に、木材の節目やのこぎり刃の痕などがある。	本機の外観は、自然な木の質感を忠実に再現するため、木材をカットしたそのままの状態が表現されています。木材の節目やのこぎり刃の痕なども、模様として製品の表面に出ている箇所がありますが、ヒビやキズではありません。ご使用にはまったく支障ありません。		

製品仕様

型式	PX-1500GP
鍵盤	88鍵、ピアノ鍵盤、タッチレスポンス付き
同時発音数	最大256音
音色	18種類 <ul style="list-style-type: none"> レイヤー可 (ベース音色を除く) スプリット可 (低域はベース音色のみ)
エフェクト	プリリアンス (-3~0~3)、ホールシミュレーター (4種)、コーラス (4種)、DSP、ダンパーレゾナンス (ダンパーノイズのオン/オフ)、ハンマーレスポンス、ストリングレゾナンス、大屋根開閉、キーオフシミュレーター
メトロノーム	<ul style="list-style-type: none"> 拍子：0 ~ 9 テンポ範囲：20~255
デュエット	音域変更可 (-1~2オクターブ)
コンサートプレイ	<ul style="list-style-type: none"> 曲数：10曲 曲の音量：調節可 パートのオン/オフ：左手/右手(レッスンモード時のみ) 3モード：リッスン、レッスン、プレイ
ミュージックライブラリー	<ul style="list-style-type: none"> 曲数：60曲、ダウンロード曲：10曲(1曲あたり最大約90KB、10曲で約900KB)※ ※ 表記容量は、1KB=1024バイト、1MB=1024²バイト換算です。 曲の音量：調節可 パートのオン/オフ：左手、右手
録音機能	<ul style="list-style-type: none"> ● レッスンパートナー <ul style="list-style-type: none"> 方式：リアルタイム録音、再生 曲数：1曲 録音トラック数：2トラック 容量：合計約5,000音符 録音内容の保持：内蔵フラッシュメモリー ● USB録音 <ul style="list-style-type: none"> USBメモリーにリアルタイム録音、再生 — リニアPCM、16bit、44.1kHz、StereoのWAV形式 曲数：99ファイル 1ファイルあたり、最大録音時間約25分まで録音可能 オーディオファイルの音量：調節可
ペダル	ダンパー (ハーフペダル可能)、ソフト、ソステヌート
その他の機能	<ul style="list-style-type: none"> タッチセレクト：3種類、オフ トランスポーズ：2オクターブ (-12~0~12) チューニング：415.5Hz~440.0Hz~465.9Hz (可変) 音律 オクターブシフト 操作のロック
MIDI	16chマルチティンバー受信
USBメモリー	<ul style="list-style-type: none"> 使用可能な容量：32GB以下を推奨 機能：SMF再生、録音曲の保存、曲データの読み込み、フォーマット、オーディオデータの再生、保存
入出力端子	<ul style="list-style-type: none"> PHONES端子：ステレオ標準ジャック×2 電源端子：DC24V ラインアウト [R] [L/MONO] 端子：標準ジャック×2 出力インピーダンス 2.3KΩ 出力電圧 1.8V (RMS) MAX USB端子：タイプB USBメモリー端子：タイプA ペダルコネクター
スピーカー	φ12cm×2+φ5cm×2 (出力20W+20W)
電源	家庭用AC100V電源使用 ACアダプター AD-E24250LW使用 <ul style="list-style-type: none"> オートパワーオフ機能：約4時間、キャンセル可能
消費電力	24V --- 20W
サイズ	本体+スタンド：幅136.7×奥行29.9×高さ83.7cm

質量	本体+スタンド：約35.5kg
付属品	ACアダプター (AD-E24250LW)、スタンド、ペダルユニット、譜面立て、ヘッドホンフック、取扱説明書 (本書)、保証書、楽譜集、安全上のご注意

- 改良のため、仕様およびデザインの一部を、予告なく変更することがあります。

【別売品のご案内】

商品名	品番
ヘッドホン	CP-16
イス	CB-5 CB-7 CB-30

カシオ電子楽器取扱店で購入可能。

- 店頭のカシオ電子キーボードカタログでより詳しい情報がご覧になれます。
<http://casio.jp/emi/catalogue>

音色リスト

音色名	プログラムチェンジ	バンクセレクト-MSB
グランドピアノ コンサート1	0	0
グランドピアノ メロウ1	0	1
グランドピアノ ブライト1	0	2
グランドピアノ コンサート2	0	3
グランドピアノ メロウ2	0	4
グランドピアノ ブライト2	0	5
グランドピアノ モダン	0	6
グランドピアノ クラシック	0	7
グランドピアノ ジャズ	0	8
グランドピアノ ポップ	0	9
エレクトリックピアノ1	4	0
エレクトリックピアノ2	5	0
エレクトリックピアノ3	4	1
ストリングス	49	0
ハーブシコード	6	0
パイプオルガン	19	0
ジャズオルガン	17	0
ベース (低音部)	32	0

コンサートプレイリスト

選択NO.	曲名
1	カノン
2	だったん人の踊り
3	ジュ・トゥ・ヴ
4	主よ、人の望みの喜びよ
5	ピアノソナタ 作品13 <悲愴> 第2楽章
6	モルダウ
7	ピアノソナタ K.331 第1楽章
8	ヴァイオリン協奏曲 第1楽章
9	展覧会の絵 「プロムナード」
10	ピアノコンチェルトNo.20 K.466 第2楽章

ミュージックライブラリーリスト

選択NO.	曲名
1	ノクターン 作品9の2
2	幻想即興曲 作品66
3	エチュード 作品10の3 <別れの曲>
4	エチュード 作品10の5 <黒鍵>
5	エチュード 作品10の12 <革命>
6	エチュード 作品25の9 <蝶々>
7	プレリュード 作品28の7
8	ワルツ 作品64の1 <小犬のワルツ>
9	ワルツ 作品64の2
10	楽興の時 第3番
11	即興曲 作品90の2
12	軍隊行進曲 第1番 (連弾)
13	春の歌 「無言歌 第5集」より
14	楽しい農夫 「ユージェント・アルバム」より
15	見知らぬ国と人々について 「子供の情景」より
16	トロイメライ 「子供の情景」より
17	タンブラン
18	メヌエット BWV Anh.114 「アンナ・マグダレーナ・バッハのクラヴィーア小曲集」より
19	インヴェンション 第1番 BWV 772
20	インヴェンション 第8番 BWV 779
21	インヴェンション 第13番 BWV 784
22	プレリュード 第1番 BWV 846 「平均律クラヴィーア曲集 第1巻」より
23	かっこう
24	ガボット
25	ソナチネ 作品36の1 第1楽章
26	ソナチネ 作品20の1 第1楽章
27	ソナタ K.545 第1楽章
28	ソナタ K.331 第3楽章 <トルコ行進曲>
29	ロンド K.485
30	エリーゼのために
31	トルコ行進曲
32	ソナタ 作品13 <悲愴> 第1楽章
33	ソナタ 作品13 <悲愴> 第2楽章
34	ソナタ 作品13 <悲愴> 第3楽章
35	ソナタ 作品27の2 <月光> 第1楽章
36	ラプソディ 第2番
37	ワルツ 作品39の15 (連弾)
38	愛の夢 第3番
39	花の歌
40	乙女の祈り
41	クシコス・ポスト
42	ユーモレスク 作品101の7
43	メロディー 「叙情小曲集 第2集」より
44	シシリエンヌ 作品78
45	子守唄 「ドリー組曲」より (連弾)
46	アラベスク 第1番
47	亜麻色の髪の乙女 「前奏曲集」より
48	バスビエ 「ベルガマスク組曲」より
49	ジムノペディ 第1番
50	ジュ・トゥ・ヴ
51	愛の挨拶
52	エンターティナー
53	メープル・リーフ・ラグ
54	アラベスク 「25の練習曲 作品100」より
55	スティリアンヌ 「25の練習曲 作品100」より
56	アヴェ・マリア 「25の練習曲 作品100」より
57	帰途 「25の練習曲 作品100」より
58	貴婦人の乗馬 「25の練習曲 作品100」より
59	第13番 「30番練習曲 作品849」より
60	第26番 「30番練習曲 作品849」より

ご使用上の注意

「安全上のご注意」と併せてお読みください。

■ 設置上のご注意

本機を次のような場所に設置しないでください。

- 直射日光のあたる場所、温度の高い場所。
- 極端に温度の低い場所。
- ラジオや、テレビ、ビデオ、チューナーに近い場所（これらを近くに置いた場合、本機には特に障害はありませんが、近くに置いたラジオやテレビの側に雑音や映像の乱れが起こることがあります）。

■ 本機のお手入れについて

- お手入れにベンジン、アルコール、シンナーなどの化学薬品は使わないでください。
- 鍵盤などのお手入れは柔らかな布を薄い中性洗剤液に浸し、固く絞ってお拭きください。

■ 付属品・別売品

付属品や別売品は、本機指定のものをご使用ください。指定以外のものを使用すると、火災・感電・けがの原因となることがあります。

■ 本機の外観について

本機の外観は、自然な木の質感を忠実に再現するため、木材をカットしたそのままの状態が表現されています。木材の節目やのこぎり刃の痕なども、模様として製品の表面に出ている箇所がありますが、ヒビやキズではありません。ご使用にはまったく支障ありません。

■ ウエルドライン

外観にスジのように見える箇所がありますが、これは、樹脂成形上の“ウエルドライン”と呼ばれるものであり、ヒビやキズではありません。ご使用にはまったく支障ありません。

■ 音のエチケット

楽しい音楽も時と場合によっては気になるものです。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。周囲に迷惑のかからない音量でお楽しみください。窓を閉めたり、ヘッドホンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

- 本書の内容については万全を期して作成いたしました。万が一不明な点や誤りなど、お気づきの点がございましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複製することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できませんのでご注意ください。
- 本書および本機の使用により生じた損失、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。

保証・アフターサービスについて

保証書はよくお読みください

保証書は必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間は保証書に記載されています

修理を依頼されるときは

まず、もう一度、取扱説明書に従って正しく操作していたが、直らないときには次の処置をしてください。

● 保証期間中は

保証書の規定に従ってお買い上げの販売店または取扱説明書等に記載の「修理サービス窓口」が修理をさせていただきます。

- 保証書に「持込修理」と記載されているものは、製品に保証書を添えてご持参またはご送付ください。
- 保証書に「出張修理」と記載されているものは、お買い上げの販売店または取扱説明書等に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」までご連絡ください。

● 保証期間が過ぎているときは

お買い上げの販売店または取扱説明書等に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」までご連絡ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

当商品は「出張修理」「持込修理」のいずれも受け付けております。修理をお急ぎの場合には、事前に「修理に関するお問い合わせ窓口」にご相談ください。お客様のご希望に沿った修理方法をご案内させていただきます。

あらかじめご了承ください

- 「修理のとき一部代替部品を使わせていただくこと」や「修理が困難な場合には、修理せず同等品と交換させていただきますこと」があります。また、特別注文された製品の修理では、ケースなどをカシオ純正部品と交換させていただきますことがあります。
- 修理のとき、交換した部品を再生、再利用する場合があります。修理受付時に特段のお申し出がない限り、交換した部品は弊社にて引き取らせていただきます。
- 録音機能などのデータ記憶機能付きのモデルでは、修理のとき、故障原因の解析のため、データを確認させていただきますことがあります。
- 日本国内向けの製品は海外での修理受付ができません。修理品は日本まで移動の上、日本国内の「修理サービス窓口」にご依頼ください。

アフターサービスなどについておわかりにならないときは

お買い上げの販売店または取扱説明書等に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」にお問い合わせください。

CASIO®

カシオ計算機株式会社

〒151-8543 東京都渋谷区本町1-6-2

© MA1512-B Printed in China



PX1500-JA-1B

© 2014 CASIO COMPUTER CO., LTD.